庭園 協会ニュース 第93号

一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田 1-6-3 フェリオ西早稲田 301
〒 169-0051　TEL:03-3204-0595（FAX 兼用）
E-mail : gsj20@m7.dion.ne.jp　URL : http://nitteikyou.org/

編集者：広報委員長・柴田 正文
委員・小沼 康子、内田 均、鈴木貴博、豊藏 均
題　字：故・上原 敬二
発行日：2018 年（平成 30 年）7 月 31 日

池のほとりの休憩所から笹倉山を望む

二〇一八年五月十八日を迎えて

菊地 正樹

5月18日は（一社）日本庭園協会百周年記念事業の中でも決して忘れることのできない記念すべき日になるだろうと思います。

東日本大震災の犠牲者の鎮魂と復興を祈る「東日本大震災復興記念庭園」を協会の百周年記念事業にと起案し、宮城県支部が中心となり、伝統庭園技塾の場として5年半の歳月をかけ２０１８年5月に完成をみました。

思い起せば、大震災にあい、発足まもない宮城県支部でしたが、覚照寺住職をはじめ支部会員、資機材を提供してくれた会員、業者、全国、海外からも駆けつけてくれた方々の協力があったことを忘れることはできません。

現場では、第1回目の石畳、石段工からはじまり、第5回は休憩所を建設し、訪れる人々が心の安らぎを憶えることと、高齢者に優しい庭園になるよう祈りを込めて最後の総まとめをしました。中でも自然の脅威との戦い、苦労もありましたが、台風襲来が味方してくれ、滝口から豪快に落ちる水に皆、感嘆の声をあげました。

ご寄付とボランティアに支えられた庭園の記録も、石碑に刻み、ようやく式典の運びとなりましたが、当日は雨が降り出し、足元の悪さもあって本堂で開園祈願を行いました。

住職の読経に始まり、名誉会長の龍居竹之介氏から挨拶を頂いた後、いよいよ内覧会に足を運びました。小雨の庭園もまた、趣深いものでした。

完成式典は、仙台駅前にあるパレスへいあん様の多大な御好意により行われ、5年間のＤＶＤ放映の後、会長の高橋康夫氏、大和町町長浅野元氏、顧問金子直作氏、檀家総代大須賀啓氏にお言葉を頂戴しました。

参列者の方々からは、心温まるお祝いの言葉を頂き、会員、塾生も安堵いたしました。多くの方々の御協力により完成をみた庭園には、地元紙の河北新報の記事を見て来たと百数人の来園者があり、覚照寺の住職もこの反響に「ただ驚くばかりだ」と笑顔で話されていました。

末筆ではありますが、現場の下見から始まり、陰になり日向になり7年間の長い歳月に力となって下さった塾長 廣瀬慶寛氏、東京農業大学教授内田均氏、庭正庭園塾生の皆さん、宮城県赤十字安全奉仕団、支部会員の皆さん、また、常に心にとめて頂き声掛けをして下さった多くの方々、ご家族の励ましに改めて心より御礼申し上げます。（副会長　宮城県支部長）

平成30年度

一般社団法人

日本庭園協会定期総会開く

平成30年3月16日　明治神宮　文化館

一般社団法人日本庭園協会は、平成30年3月16日（金）東京・代々木の明治神宮文化館で、午前10時半から全国評議員会、午後1時から総会を開催した。

【全国評議員会】午前10時30分。楠の間

司会＝柴田正文常務理事

菊地正樹副会長の開会の辞の後、高橋康夫会長の挨拶の後議長として議事進行。第一号議案「平成29年度事業報告、収支決算、会計監査報告」、第二号議案「平成30年度事業計画、予算説明」、第三号議案「役員改選の件」その他、日本庭園協会賞選考規定の件、日本庭園協会創立百周年記念事業の件、総会議決事項の委任の件、また、協会運営について、など積極的な議論が交わされ、総会において一括審議を諮るということで可決。

【総会】午後3時。椎の間

司会＝柴田正文常務理事

正会員　出席者298名（委任状出席211名）で定款第二十一条により成立。菊地正樹副会長の開会の辞、高橋康夫会長の挨拶、龍居竹之介名誉会長の挨拶の後、会長が議長席に着き議事録作成者に加藤精一総務委員、議事録署名者に福田光子理事、高橋良仁理事を指名、議事にはいる。

○第一号議案「平成29年度事業報告、収支報告、会計監査報告の件」

事業報告＝加藤精一総務委員及び各委員長

決算報告＝加藤新一郎財務委員長

監査報告＝野村脩監事

1　現状（平成30年2月24日現在）

(1)事務所…〒169―0051

東京都新宿区西早稲田1―6―3

フェリオ西早稲田301号

電話…03（3204）0595

URL http://nitteikyou.org/

E-Mail gsj20@m7.dion.ne.jp

(2)会員数　正会員497名（＋16）

特別会員／名誉会員10名（＋2）

維持会員8社（＋1）

学生会員2名（＋2）

総会員数517名（＋21）

※カッコ内の数字は前年比

(3)本部委員会および特別委員会（カッコ内は委員長）、支部組織

①本部委員会／総務委員会（加藤精一）、財務委員会（加藤新一郎）、広報委員会（柴田正文）、鑑賞研究委員会（藤枝修子）、技術委員会（廣瀬慶寛）、国際活動委員会（三橋一夫）②文化財指定庭園調査委員会（高橋康夫）、日本庭園協会賞選考委員会（高橋康夫）、日本庭園協会百周年記念事業実行委員会（高橋康夫）、日本庭園協会百周年記念出版委員会（柴田正文）、日本庭園協会賞選考規定検討委員会（高橋良仁）

③支部（カッコ内は支部長）

北海道南支部（坂勝）・宮城県支部（菊地正樹）・栃木県支部（峯崎照將）・茨城県支部（飛田幸男）・埼玉県支部（石井国義）・千葉県支部（村田義雄）・東京都支部（加藤精一）・神奈川県支部（清水哲也）・新潟県支部（若杉松男）・石川県支部（向川茂）・静岡県支部（石井敬明）・愛知県支部（高見紀雄）・近畿支部（山田拓広）・岡山県支部（三宅秀俊）・広島県支部（藤原忍）・鳥取県支部（石亀靖）・島根県支部（岡和生）・山口県支部（殿井正敏）・四国支部（越智將人）

2　事業の概要

【本部事業】

(1)総務事業　①全国支部長連絡協議会（2・4～5）②（一社）日本庭園協会定期総会（3・17）③常務理事会（1・24）（2・27）（4・17）（6・29）（7・25）（8・21）（8・29）（9・19）（10・30）（11・29）（12・12）④理事会（2・27）（8・21）

(2)広報事業　①庭園協会ニュース87～90号発行②GSJミニニュース44～59発行③パンフレットの作成（A3二つ折りカラー10000部）④創立百周年記念誌出版委員会開催

(3)鑑賞研究事業　①講演会「日本庭園の見どころ―東京に残る庭園の特徴と現在」亀山章氏（4・16）日本女子大学桜楓2号館②初夏の一日見学会「武蔵野の育む庭を訪ねる」（東京都支部共催）（7・9）③秋の一泊見学会「東日本大震災復興記念庭園作庭現場ほか」（10・14～15）

(4)技術事業　①庭園技術連続基礎講座（5・28）（6・25）（7・30）（8・27）（9・24）②みんなの緑学「日本庭園における空間デザインの本質」榊原八朗氏（6・3）緑と水の市民カレッジ③伝統庭園技塾（10・11～15）宮城県　覚照寺

総会に先立って開かれた全国評議員会

(5)国際活動委員会　①ポートランド日本庭園セレモニー、インスティテュートについて講演打合せ（3・9）東京②ポートランド日本庭園グランドセレモニー参加、セミナー打合せ（3・27～4・2）ポートランド③インドネシア庭園協会パイマン氏来日、京都案内（4・10～11）三橋一夫氏・本川勇氏・山田拓広氏④インスティテュート、セミナー参加、指導（8・24～9・6）ポートランド⑤英国日本庭園協会参加（9月）山田拓広氏⑥北米日本庭園協会地域会議、石組・剪定の指導（9・14～17）ハワイ、山田拓広氏⑦パイマン氏より裏千家ジャカルタ支部主催茶会の招待（10・18）山田拓広氏

【支部事業】

〈北海道南支部〉

(1)会議の開催　会議の開催　①支部総会・新年懇親会（1・11）函館KKR②役員会（4・8）函館造園建設協同組合③役員会（11・14）

(2)技術事業　①炭窯周りの修景計画（6・18）後藤造園

〈宮城県支部〉

(1)会議の開催　①通常総会・新年会（1・29）基調講演・星宏海氏、パレスへいあん

(2)技術事業　①伝統庭園技塾準備作業（3・19～20）（4・24～26）（5・3、4）（6・18）（7・16）（9・1～9）（9・23～24）覚照寺②伝統庭園技塾（10・11～15）覚照寺

〈茨城県支部〉

(1)会議の開催　①全国評議員会・総会（3・17）②支部総会（3・29）水戸市中川楼

(2)技術事業　①石積講習会（4・8～9）大平造園置場②見学会　日本造園修景協会茨城県支部主催視察研修会へ参加協力③本部・都支部共催見学会へ参加

〈埼玉県支部〉

(1)会議の開催　①総会・新年会（1・29）さいたま市ふな又②役員会（1・10）（3・29）（4・19）（7・2）（9・13）（10・17）（12・5）浦和美園コミュニティセンター他

(2)技術事業　①アート長屋展示（1・11～15）県立近代美術館②研修会と準備（5・26～27）（6・24～25）（8・26～27）（9・23～24）（10・8）準備（11・1）（11・6）石井庭苑農場③研修会（11・2～3）県立近代美術館④研修会（11・7～8）さいたま市さぎ山の現場⑤研修会「MOMASのとびら」（11・18）ワークショップ　県立近代美術館⑥作品発表会（12・10）さいたま市伊勢丹浦和店

〈千葉県支部〉

(1)会議の開催　①支部総会（5・25）龍居竹之介名誉会長講演「環境とお客様に合わせた庭の手入れ」ラディソンホテル成田②役員会（4・25）（5・30）（7・28）（11・7）（12・11）③親睦会（8・26）ラディソンホテル成田④忘年会（12・17）成田「扇本家」

(2)技術事業　①研修会　茅葺屋根の補修作業（5・24）②見学会「千葉県にある名園を藤井英二郎氏と歩く」（6・20）旧吉田家住宅、戸定歴史館

〈東京都支部〉

(1)会議の開催　①新年会（1・27）吉祥寺②全国支部長連絡協議会（2・4～5）小田原市③支部総会（4・9）石正園④納会（11・26）吉祥寺⑤「連続交歓講座」打合せを都度実施

(2)技術事業　①石造物勉強会（4・9）石正園②東京都支部・本部共催講座（6・9～10）龍居竹之介名誉会長講演、浜離宮・昭和記念公園・殿ヶ谷戸②鑑賞研究委員会・都支部共催見学会（7・9）武蔵野③版築実践塾「一般住宅の庭にて版築を学ぶ」1回目（9・9～10）2回目（9・16、17）町田市

〈神奈川県支部〉

(1)技術事業　小田原総世寺裏庭において5ヶ年計画で作庭を計画、実行中。現在1期目①崩れ石積講師　川口浩氏（2・18～20）②大磯砂利洗出し講師　長田幸司氏（4・14～16）③穂垣講師　櫻井一喜氏

〈石川県支部〉

(1)会議の開催　①支部総会（1・29）湯涌温泉お宿やました②役員会（11・29）③本部総会参加（3・17）全国支部長連絡協議会参加（2・4）

(2)技術事業　①視察研修会（6・25）クレフィール湖東・佐川美術館他②剪定・雪吊り・コモ巻講習会（10・18～29）いこいの村能登半島

〈静岡県支部〉

(1)会議の開催　①支部総会（3・12）

グランシップ②本部総会参加（3・17）明治神宮③全国支部長連絡協議会参加（2・4）小田原市④役員会（9・3）

⑵技術事業　①庭園研修・編み笠門16「垂木、桧皮」（1・29）17・18「笠の骨組」（2・26）（3・26）19・20「笠の下地」（4・23）（5・14）21・22「笠軒の小端」（6・11）（7・16）23「笠の下地」（9・3）②視察研修（4・21～22）永保寺・豊田美術館等

〈愛知県支部〉

⑴会議の開催　支部総会（2・18）刈谷市産業振興センター

⑵技術事業　①第2回石積講座in世田谷（3・25～26）おしゃ楽世田谷②第2回フラリエみらい花フェスタガーデンコンテスト（4・13～16）名古屋市久屋大通庭園フラリエ③第10回石積講座（4・22～23）おしゃ楽④第11回石積講座（11・11～12）おしゃ楽⑤島根研修旅行（6・3～5）⑥手書きパース講座1（7・1）⑦講座2（7・15）⑧講座3（8・5）竹藤商店⑨第3回石積講座in世田谷（10・21～22）おしゃ楽世田谷

〈近畿支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（4・8）京都東急ホテル②役員会（12・8）東京農業大学③北米日本庭園協会ハワイ支部研修会への参加（9・14～16）

〈岡山県支部〉

⑴会議の開催　①本部総会（3・17）②支部総会（4・3）③役員会（4・19）（7・20）（8・28）

⑵技術事業　鳥根県支部講習会（10・28～29）

〈広島県支部〉

⑴会議の開催　①支部主催創縁（2月）河西力氏②支部総会（3・5）海老蔵③本部総会（3・17）

⑵技術事業　鳥根県支部・本部共催講座（10・29）

〈鳥取県支部〉

⑴会議の開催　支部総会（4・23）石亀芳樹園

⑵技術事業　鳥根県支部講習会10月）

〈島根県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（1・28）②本部総会（3・17）

開会の挨拶をする高橋康夫会長

⑵技術事業　②鳥根県支部講習会編笠門・桂垣（8・25～27）水琴窟・土塀（10・28～29）

〈山口県支部〉

⑴会議の開催　支部総会（5月）下関

⑵技術事業　庭園技塾（10月）座（10・29～30）

〈四国支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（5・20）琴平町　支部名称変更　支部長越智将人　副支部長米谷進吾　事務局長今田康正②役員会（8・31）（2・23）西条市

⑵技術事業　①第1回石積講座（4・8～9）②第2回（1・13～14）いよせきガーデン③山陰庭園見学研修会（10・9～10）京都庭園見学会

以上の報告に続いて収支決算報告を加藤新一郎財務委員長、会計監査報告を野村脩監事により行われた結果、満場異議なく了承、第一号議案は可決した。

○第二号議案「平成30年度事業計画、予算説明」

計画説明＝各委員長、支部長

予算説明＝加藤新一郎財務委員長

平成30年度事業計画の概要

【本部事業】

◎本部事業の推進

本年は日本庭園協会創立百周年を迎える記念すべき年である。この機会を絶好の機会と捉え、我が日本庭園協会の力を内外に示すために支部と本部が一体となり、会員が全員参加するかたちで庭園協会の持つ力を結集し、天下にその存在を示したい。「今までの100年」、そして新たな庭園文化を示す「これからの100年」を提案したい。

庭園協会の役割は、日本庭園技術の保持及び継承（後継者育成を主に）、日本庭園の持つ歴史性、文化性、芸術性の普及啓発であるが、庭園協会の保持している技術、知見を伝承するためにも各事業において若い世代の参加を促進する内容とする。さらに、会員の勧誘を積極的に推進する。また、国内外の他の団体とも積極的に連携し、庭園文化発展のため、普及活動を推進する。

なお、役員改選については平成28年度より推進している若手へのシフトを進める。

①創立百周年記念事業の実施

記憶に残る記念事業を実施する。東日本大震災復興記念庭園の開園式典をキックオフに、百周年イヤーとして記念式典等を会員全員参加の下に確実に実施する。

②東日本大震災復興記念庭園は昨年度5ヶ年計画の最終年であり、多くの参加者の熱意で完成を見た。今年度5月に開園式典を行うがそれに合わせて伝統庭園技塾を実施し、全国から多くの方が記念庭園築庭に参加するよう広く呼びかけを行う。また、庭園協会が持っている伝統の技を若い人に伝える場としたい。

③庭園技術連続基礎講座をより斬新な内容とし、日本を代表とする技術、作庭手法を持つ庭園協会の先達が若い人にしっかりと技術を伝える内容とする。また、「みんなの緑学」講座に庭園協会の枠を設定し、市民に向けた庭園講座を実施する。

④鑑賞研究委員会は庭園の素晴らしさを市民に伝える重要な役割を担っており、若い人の積極的な参加を働きかけると共に市民に開かれた鑑賞会を推進する。

⑤広報委員会は本部及び支部の最新の情報を発信するとともに、記念誌編集については、100年後の会員へのプレゼントになるよう紙面を充実させる。

⑥国際活動委員会はポートランド日本庭園とのさらなる連携と協力を進めると共に北米日本庭園協会（NAJGA）との連携を深め国際交流を推進する。また、ヨーロッパおよびアジアにも目を向けて多角的な視点で国際交流を推進する。

⑦昨年度は新しい支部・島根県支部が設立され19支部となり全国展開が一層進んでいるが、さらなる全国展開を推進する。本部と支部の共催活動も充実してきたので、これを継続することが重要と考える。また、全国支部長連絡協議会と本部の関係を大切にする。

⑧日本庭園協会賞については慎重に議論を進めてきたが新たな協会賞を提案するので、選考規定を決定し、百周年を契機に選考を行う。

⑴総務委員会事業

第1回常務理事会（1・25）・第5回全国支部長連絡協議会（2・10）函館市・第2回常務理事会（2・26）・第1回理事会（2・26）日中友好会館・評議員会・定期総会（3・16）・東日本大震災復興記念庭園開園式典（5・18）宮城県覚照寺・創立百周年記念式典（10・21）日比谷・その他常務理事会の開催、百周年記念事業の推進

⑵広報委員会事業　①広報委員会開催（適宜開催予定）②庭園協会ニュースの発行　第91～94号・年間4回（1・3・7・11月）発行予定③GSJミニニュースの発行（全会員へのはがき通信）これまでの随時発行を止め、奇数月の月末に定期的に発行する（年6～10回）。記載内容は企画行事名・日時・参加費・問い合わせ支部名とし、申込者からの詳細問合わせがあれば対応する。希望する支部は発行日の2ヶ月前までに本部宛に申請する。④ホームページを利用しての広報活動を重点的に考える⑤広報委員に加藤精一委員を外し鈴木貴博氏を加える（平成30年2月14日より）⑥創立百周年記念誌発行準備を広報委員5名に加え合計9名で構成する記念誌出版委員会にて準備を進めて行く。

★創立百周年記念誌出版委員会　平成30年度事業計画

①記念誌出版委員会開催（適宜）②「東日本大震災復興記念庭園築庭の記録」小冊子出版　5月中旬刊行予定③創立百周年記念誌出版9月末刊行予定

⑶鑑賞研究委員会事業　①講演会「わが師飯田十基と親方学」平井孝幸氏（4・15）日本女子大学桜楓2号館

②見学会　初夏の一日見学会（湘南地方を予定）秋の一泊見学会「百周年記念講演見学会」（京都中心　11月中旬～下旬）

⑷技術委員会事業　①創立百周年記念事業　清澄庭園再評価プロジェクト連続講演会・龍居竹之介名誉会長「清澄庭園の魅力をさぐる～近代庭園の原点」（7・2）・静嘉堂文庫美術館元参与　原徳三氏「岩崎家と清澄庭園」（1・14）・神奈川大学教授　内田青蔵氏「涼亭の文化財価値」（1・21）・神奈川県立生命の星・地球博物館名誉会員　松島義章氏「清澄庭園と名石」（2・3）・東京農工大学名誉教授・文化財指定庭園保護協議会会長　亀山章氏「名勝としての価値」（3・30）・龍居竹之介名誉会長「清澄庭園の魅力をさぐる・2～近代庭園の原点」（4・10）②伝統庭園技塾「東日本大震災復興記念庭園築庭事業」覚照寺（5・15～17）開園式（5・18）第10回庭園技術連続基礎講座（＋建築家）建物と庭・由比誠一郎氏（4・29）・本川勇氏（5・27）・金綱重治氏（6・24）・高橋良仁氏（7・28）平井孝幸氏（8・26）③支部・本部共催講座　本年度は百周年記念事業が多彩なため次年度に行う。

⑸国際活動委員会事業　国交省と海外日本庭園再生プロジェクトの打合せをする①ポートランドでのNAJGA大会の協議（4・26～27）京都②世界遺産についての会議参加・ポートランド側、文化庁他関係者（4・28）東京③NAJGA大会に於ける講演につき打合せ、準

龍居竹之介名誉会長のあいさつ

備を進める（5月）宮城④セミナーに参加、講演、技術指導（三橋一夫氏・本川勇氏）（9・19～27）⑤NAJGA大会に参加（宮城県支部横山英悦氏、八木沢裕樹氏、その他希望者）（9・28～10・2）ポートランド

【支部事業】

〈北海道南支部〉

(1)技術事業　見学会①東日本大震災復興記念庭園開園式（5・18）②百周年記念式典（10・21）・研修会（4月・10月）①炭窯周りの修景計画後藤造園内②石積講習　伊藤造園内③石室講習

〈宮城県支部〉

(1)会議の開催　①支部総会・新年会（1・8）パレスへいあん③随時役員会の開催②支部役員会

(2)技術事業　①伝統庭園技塾（5・15～17）②内覧会・覚照寺、落成式・パレスへいあん（5・18）③随時庭づくり講習会・講演会、覚照寺庭園整備作業

〈茨城県支部〉

(1)会議の開催　①石積打合せ、新年会・水戸市新竹（1・20）②全国評議員会・総会（3・16）③支部総会・中川楼（3・26）④役員会（4月・10月・12月）反省会及び今後の事業計画

(2)技術事業　石積（城積）講習会（4・10～11）東日本大震災復興記念庭園完成記念式典（5・18）技能研修会（11月）

〈埼玉県支部〉

(1)会議の開催　①支部総会、新年会・ふな又（1・28）

(2)技術事業　①アート長屋展示・埼玉県立近代美術館（1・9～14）②さぎ山の現場展片付け（2月）③「庭」シンポジウム（3・11）④美術館ワークショップ（3・24）⑤「風のかたち」撤収、移設（4・1）⑥埼玉県立近代美術館　研修会、講演会　さいたま市（5・6月）⑦研修旅行・九州方面（9月）⑧作品発表会（12月）

〈千葉県支部〉

(1)会議の開催　①役員会（4月・6月・8月・10月・12月・1月）＊総会準備その他、活動計画に合わせて随時②支部総会（5・19）ラディソンホテル成田　特別講演（未定）

(2)技術事業　（新会員の加入を目指しての活動をする）

(3)見学会　庭園見学会・支部研修会に合わせた見学会を予定（6・19）懇親会・ラディソンホテル成田にてBBQ大会（8・25）忘年会（12月）新年会（1月）第6回全国支部長連絡協議会・千葉支部担当（2月上旬）技術講習会・会員の技術から、蹲踞を生かした作庭を学ぶ（案）（2月上旬）支部会員の提案でミニ研修会を希望に合わせて開催

〈東京都支部〉

(1)会議の開催　①全国支部長連絡協議会・函館市（2・10）②全国評議員会・定期総会（3・16）③支部総会・懇親会（4月）④研修旅行（計画中・未定）⑤納会・来年の活動について（12月）

(2)技術事業　東京都支部・本部共催講座　第1回連続交歓講座・高野義武氏（2・11）第2回連続交歓講座・金田正夫氏（7・8）＊第3回連続交歓講座の企画準備中（未定）・その他、支部会員の提案、希望により検討開催

〈神奈川県支部〉

(1)技術事業　小田原総世寺裏庭5ヶ年計画①（3・17～18）②河西力氏に講師依頼・本部にも協力依頼（4・20～22）③（5・18～20）④（6・15～17）⑤庭園見学会予定（9月、10月）

〈新潟県支部〉

(1)技術事業　①新潟県支部主催第24回伝統庭園技塾（6月頃、石泉荘、ロープワークを用いた庭木剪定（赤松）②支部員勉強会1県外研修会（仙台方面）2.県内研修会（未定）

〈石川県支部〉

(1)技術事業　①版築塀講習会（5月）②都内庭園視察研修（10・20～22）③本部総会参加（3・16）④百周年記念式典参加（10・21）⑤伝統庭園技塾（5・15～17）⑥東日本大震災復興記念庭園開園式典（5・18）城至純治氏出席予定

〈静岡県支部〉

(1)会議の開催　通常総会（3・18）

(2)技術事業　引き続き編笠門の製作

(3)視察研修　枝折戸（蛇籠）の製作視察研修（3・25）全国社寺屋根工事技術保存会、北村美術館、教林坊、ラコリーナ近江八幡

〈愛知県支部〉

(1)会議の開催　支部総会（2・10）刈谷市産業振興センター

(2)技術事業　①フラリエみらい花フェスタガーデンコンテスト参加（4・12～15）久屋大通庭園フラリエ②第12回石積講座（4・21～22）おしゃ楽③東日本大震災復興記念庭園開園式典（5・18）東北宮城県庭園見学研修旅行（5・19～20）後期未定

〈近畿支部〉

(1)会議の開催　支部総会（2・23予定）②役員会、必要に応じて随時

(2)見学会　京都市内及び近辺

(3)その他　必要に応じて随時

〈岡山県支部〉

未定

〈広島県支部〉

百周年記念事業に参加

(1)会議の開催　支部総会（3月上旬予定）

(2)見学会　開催予定

〈島取県支部〉

(1)会議の開催　支部総会（1・27）他支部との交流と情報交換

〈島根県支部〉

(1)会議の開催　①支部総会（1・12）武志山荘②本部定期総会出席（3・16）

(2)講習会　①刃物砥ぎ講習会・高橋光二氏（4月）②茶会・安松軒（5月）

(3)研修会　パースの手書き講座（3月より毎月2回）講師　松本修宗氏③竹炭窯築炉（9月）

〈山口県支部〉

(1)会議の開催　①幹事会・全国支部長連絡協議会出席（2月）函館②総会及び全国評議員会出席（3・16）明治神宮文化館②幹事会・支部総会（6月）④幹事会（9月）⑤百周年記念式典出席（10月）東京⑦記念事業山口県支部開催（10月）山口市

〈四国支部〉

(1)会議の開催　支部総会（3・31）百周年記念式典（10・20～22）

(2)技術事業　①石積講習会（4・8～9）②モルタル造形研修会・今治市法華寺（4月）

(3)見学会　庭園見学会・役員会（日程未定）

以上の報告に続いて、平成30年度収支予算案の報告が行われた結果、全員異議なく了承、第二号議案は可決した。

○第三号議案「役員改選の件」

趣旨説明＝高橋康夫会長

新役員　新理事は、総務委員長に加藤精一常務理事、小沼康子理事、平井孝幸理事、新評議員は高良啓子氏、坂井昌子氏、坂本利夫氏、清水一樹氏、曽根将郎氏、望月敬士氏、桃井雅彦氏。

第三号議案は、審議の結果、原案のとおり承認された。

○第四号議案「日本庭園協会賞選考規定の件」

趣旨説明＝高橋良仁理事

日本庭園協会賞準備概要書により説明、提案された。

第四号議案は、詳細の確認後、承認された。

○第五号議案「日本庭園協会創立百周年記念事業の件」

趣旨説明＝加藤精一総務委員長

第五号議案は、全員異議なく、承認された。

○第六号議案　「総会議決事項の委任の件」

趣旨説明＝高橋康夫会長

第六号議案は、全員異議なく、承認された。

常務理事会への委任が可決された。平成30年度　事業計画・収支予算の補正及び特別会計・役員改選に関する件。その他、日本庭園協会賞の規定作成、百周年記念事業の件。

平成30年度一般社団法人日本庭園協会定期総会は、藤枝修子副会長の閉会の辞で、無事終了した。引き続き会場を移して、懇親会が開かれた。

本部からのお知らせ

協会創立百周年を迎えた本年は多くの記念事業が開催されています。

「清澄庭園再評価プロジェクト」は全6回にわたって開かれました。「東日本大震災復興記念庭園」も伝統庭園技塾として5年半にわたる作庭を終え5月18日に無事開園式を終えました。また文化財庭園修復基礎研修として「浅草寺本坊伝法院にて研修会」が開かれました。東京都支部との共催講座である「第1回・第2回交歓講座」も好評のうちに終了しており第3回も企画中です。10月21日（日）には「創立百周年記念講演会・記念式典・祝賀会」を日比谷公園内松本楼で開催いたします。公園内各所においてガーデニングショーも開催されており、本協会も出展を予定してます。別紙にて詳細のご案内と参加申込書をお届けいたしますのでお誘いあわせの上ご参加ください。11月8～9日に鑑賞研究委員会企画の「重森千青先生とめぐる・京都和モダンの庭」見学会も募集案内をご参照ください。皆様のご参加をお待ちしております。

百年の歴史を祝い、次の百年に向けて日本の庭園文化を広く世に広めるために皆で集いましょう。

平成 29 年度収支計算書

平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目		予算額	本年度決算額	増　減
Ⅰ　事業活動収支の部				
1．事業活動収入				
①入会金収入	入会金収入	145,000	195,000	△ 50,000
②会費収入	受取会費	6,000,000	6,379,900	△ 379,900
③事業収益	連続講座収入	600,000	840,172	△ 240,172
	伝統庭園技塾	0	0	0
	鑑賞研究講演会	140,000	76,000	64,000
	鑑賞研究見学会	1,680,000	290,000	1,390,000
	庭園協会賞講演会費	0	5,000	△ 5,000
	機関誌「庭園」売益	600,000	618,000	△ 18,000
	庭園協会賞講演加費	200,000	842,400	△ 642,400
	受託事業費			
④受取寄付金	受取寄付金		4,170,000	△ 4,170,000
⑤雑収益	広告収入	100,000	0	100,000
	受取利息	30,000	52	29,948
	雑収益	0		
事業活動収入計		9,495,000	13,416,524	△ 3,921,524
（2）経常費用				
①事業費		7,165,000	3,398,784	3,766,216
1-1	広報委員会費	1,100,000	1,478,249	△ 378,249
1-1-1	会報発行印刷配布費	800,000	1,215,809	△ 415,809
1-1-1-1	会報印刷費	450,000	514,009	△ 64,009
1-1-1-2	会報郵送料	350,000	701,800	△ 351,800
1-1-2	会報取材編集費	100,000	100,000	0
1-1-3	「庭園」発行費	0	0	0
1-1-4	協会パンフレット作成費	200,000	162,440	37,560
1-2	鑑賞研究委員会費	1,870,000	486,985	1,383,015
1-2-1	鑑賞研究講演会費	270,000	87,134	182,866
1-2-2	鑑賞研究見学会	1,600,000	399,851	1,200,149
1-3	技術委員会費	1,707,000	970,043	736,957
1-3-1	連続講座費	525,000	490,043	34,957
1-3-1-1	講師謝礼	150,000	180,000	△ 30,000
1-3-1-2	講師旅費交通費	215,000	39,000	176,000
1-3-1-3	事務・会場手伝い謝礼	100,000	75,000	25,000
1-3-1-4	講座会場費	50,000	141,480	△ 91,480
1-3-1-5	講座用事務・消耗品費	10,000	54,563	△ 44,563
1-3-2	地方講演会費	220,000	20,000	200,000
1-3-2-1	講師謝礼	40,000	20,000	20,000
1-3-2-2	講師旅費交通費	180,000	0	180,000
1-3-3	伝統庭園技塾（仙台）	840,000	384,000	456,000
1-3-3-1	講師謝礼	120,000	200,000	△ 80,000
1-3-3-2	講師旅費交通費	120,000	184,000	△ 64,000
1-3-3-3	東日本大震災復興記念庭園築庭助成金	600,000	0	600,000
1-3-4	文化財指定庭園調査会費	122,000	76,000	46,000
1-3-4-1	文化財指定庭園保護協議会年会費	10,000	20,000	△ 10,000
1-3-4-2	文庭協総会負担金	112,000	56,000	56,000
1-4	国際活動委員会費	138,000	78,267	59,733
1-4-2	本部会議時国際委員交通費補助	96,000	0	96,000
1-4-3	NAJGA 年会費	42,000	63,987	△ 21,987
1-4-4	国際交流費	0	14,280	△ 14,280
1-5	文化財指定庭園調査・修復費	1,350,000	385,240	964,760
1-6	100 周年記念事業積立金	1,000,000	0	1,000,000
②管理費		4,975,259	5,212,453	△ 237,194
2-1	定期総会費	700,000	864,000	△ 164,000
2-1-1	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	70,000	71,560	△ 1,560
2-1-2	総会用事務・消耗品費	15,000	0	15,000
2-1-3	総会資料印刷	15,000	0	15,000
2-1-4	庭園協会賞講演会費	600,000	792,440	△ 192,440
2-2	本部諸会議費	197,000	104,652	92,348
2-2-1	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	10,000	2,500	7,500
2-2-2	会議時飲食代	100,000	4,796	95,204
2-2-3	会議用資料コピー代	3,000	0	3,000
2-2-4	会場代	20,000	47,520	△ 27,520
2-2-5	地方役員交通費補助	14,000	26,000	△ 12,000
2-2-6	常務理事会会議費	50,000	23,836	26,164
2-3	支部委員会費	60,000	228,720	△ 168,720
2-3-1	支部長会交通費半額補助	60,000	219,000	△ 159,000
2-3-2	支部長会会場代	0	9,720	△ 9,720
2-4	事務局職員給料	1,000,000	958,800	41,200
2-5	事務局職員交通費	240,000	200,420	39,580
2-6	ホームページ運営管理費	146,000	199,562	△ 53,562
2-7	渉外慶弔祝賀費	200,000	126,200	73,800
2-7-1	渉外費（関係団体賛助金、接待費）	60,000	100,000	△ 40,000
2-7-2	慶弔費	60,000	26,200	33,800
2-7-2	支部活動お祝い金	80,000	0	80,000
2-8	本部役員地方出張旅費交通費	100,000	0	100,000
2-9	通信費	385,000	627,696	△ 242,696
2-9-1	郵便・配送費	300,000	523,261	△ 223,261
2-9-2	電話料	85,000	104,435	△ 19,435
2-10	事務用品・消耗品費	300,000	347,273	△ 47,273
2-11	宣伝広告費	110,000	86,400	23,600
2-12	光熱費	55,000	51,978	3,022
2-13	賃借料	1,179,259	1,102,116	77,143
2-13-1	事務所家賃	1,002,859	925,716	77,143
2-13-1	コピー機リース料	176,400	176,400	0
2-14	租税公課費	70,000	0	70,000
2-15	銀行手数料等	90,000	96,076	△ 6,076
2-16	顧問料	133,000	208,530	△ 75,530
	会計事務所顧問料		164,000	△ 164,000
	法律事務所顧問料		44,530	△ 44,530
2-17	諸雑費	10,000	10,030	△ 30
経常費用計		12,140,259	8,611,237	3,529,022
当期経常増減額		△ 2,645,259	4,805,287	△ 7,450,546
③固定資産廃棄損			279,000	
経常外費用			279,000	
当期経常外増減			△ 279,000	
当期一般正味財産増減額		△ 2,645,259	4,526,287	△ 7,171,546
一般正味財産期首残高			1,341,617	
一般正味財産期末残高			5,867,904	
Ⅱ 正味財産期末残高		△ 2,645,259	5,867,904	△ 8,513,163

平成 30 年度予算書

平成 30 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目		29 年度決算額	30 年度予算額	
Ⅰ　事業活動収支の部				
1．事業活動収入		9,495,000	8,805,000	
①入会金収入	入会金収入	145,000	195,000	
②会費収入	受取会費	6,000,000	6,000,000	
③事業収益	事業収益			
	講座収入	600,000	600,000	
	鑑賞研究講演会	140,000	100,000	
	鑑賞研究見学会	1,680,000	600,000	
	庭園協会賞参加費	600,000	600,000	
	受託事業費	200,000	100,000	
受取寄付金	受取寄付金	0	500,000	
④雑収益	雑収益			
	広告収入	100,000	100,000	
	受取利息	30,000	10,000	
	雑収益		0	
事業活動収入計		9,495,000	8,805,000	
2．事業活動支出		12,041,259	8,465,430	
1 事業費支出		7,165,000	3,266,000	
1-1	広報委員会費	1,100,000	1,280,000	
1-1-1	会報発行印刷配布費	800,000	1,180,000	
1-1-1-1	会報印刷費	450,000	520,000	
1-1-1-2	会報郵送料	350,000	660,000	発行 10 回＋送料
1-1-2	会報取材編集費	100,000	100,000	
1-1-3	「庭園」発行費	200,000	0	
1-2	鑑賞研究委員会費	1,870,000	480,000	
1-2-1	鑑賞研究講演会費	270,000	80,000	
1-2-2	鑑賞研究見学会	1,600,000	400,000	
1-3	技術委員会費	1,707,000	836,000	
1-3-1	連続講座費	525,000	500,000	
1-3-1-1	講師謝礼	150,000	180,000	
1-3-1-2	講師旅費交通費	215,000	40,000	
1-3-1-3	事務・会場手伝い謝礼	100,000	75,000	
1-3-1-4	講座会場費	50,000	140,000	
1-3-1-5	講座用事務・消耗品費	10,000	65,000	
1-3-2	地方講演会費	220,000	20,000	
1-3-2-1	講師謝礼	40,000	20,000	
1-3-2-2	講師旅費交通費	180,000	0	
1-3-3	伝統庭園技塾（仙台）	840,000	240,000	
1-3-3-1	講師謝礼	120,000	120,000	
1-3-3-2	講師旅費交通費	120,000	120,000	
1-3-4	文化財指定庭園調査会費	122,000	76,000	
1-3-4-1	文化財指定庭園保護協議会年会費	10,000	20,000	
1-3-4-2	文庭協総会負担金	112,000	56,000	
1-4	国際活動委員会費	138,000	100,000	
1-4-2	本部会議時国際委員交通費補助	96,000	20,000	
1-4-3	NAJGA 年会費	42,000	65,000	
1-4-4	国際交流費（NAJGA 調印式参加費）	0	15,000	
1-5	文化財指定庭園調査・修復費	1,350,000	70,000	
1-6	100 周年記念事業積立金	1,000,000	500,000	

科　目		29 年度決算額	30 年度予算額	備考
2　管理費支出		4,876,259	5,199,430	
2-1	定期総会費	700,000	700,000	
2-1-1	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	70,000	70,000	
2-1-2	総会用事務・消耗品費	15,000	15,000	
2-1-3	総会資料印刷	15,000	15,000	
2-1-4	庭園協会賞講演会費	600,000	600,000	
2-2	本部諸会議費	197,000	257,000	
2-2-1	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	10,000	10,000	
2-2-2	会議時飲食代	100,000	100,000	
2-2-3	会議用資料コピー代	3,000	3,000	
2-2-4	会場代	20,000	20,000	
2-2-5	地方役員交通費補助	14,000	74,000	
2-2-6	常務理事会会議費	50,000	50,000	
2-3	支部委員会費	60,000	1,000,000	
2-4	事務局職員給料	1,000,000	240,000	
2-5	事務局職員交通費	240,000	201,000	未払金 97,200 含む
2-5-1	ホームページ運営管理費	146,000	195,000	
2-5-2	ウェブサイト管理費	140,000	6,000	
2-6	サーバー、ドメイン更新料	6,000	200,000	
2-6-1	渉外慶弔祝賀費	200,000	60,000	
2-6-2	渉外費（関係団体賛助金、接待費）	60,000	60,000	
2-6-2	慶弔費	60,000	80,000	特約メール値上げあり
2-7	支部活動お祝い金	80,000	100,000	
2-8	本部役員地方出張旅費交通費	100,000	500,000	
2-8-1	通信費	385,000	600,000	
2-8-2	郵便・配送費	300,000	500,000	
2-9	電話料	85,000	100,000	
2-10	事務用品・消耗品費	300,000	300,000	
2-11	宣伝広告費	110,000	110,000	契約更新につき手数料
2-12	光熱費	55,000	55,000	1 か月分増額
2-12-1	賃借料	1,179,259	1,186,400	
2-13	事務所家賃	1,002,859	1,010,000	
2-14	コピー機リース料	176,400	176,400	
	銀行手数料等	90,000	90,000	
2-15	顧問料	164,000	150,000	
	会計事務所顧問料	164,000	100,000	
	法律事務所顧問料	0	50,000	
	諸雑費	10,000	10,030	火災保険料
事業活動支出計		12,041,259	8,465,430	
事業活動収支差額				
当期収支差額				
前期繰越収支差額				
次期繰越収支差額				

正味財産増減計算書

平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目		予算額	本年度決算額	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
（1）経常収益				
①入会金収入	入会金収入	145,000	195,000	△ 50,000
②会費収入	受取会費	6,000,000	6,379,900	△ 379,900
③事業収益	連続講座収入	600,000	840,172	△ 240,172
	伝統庭園技塾	0	0	0
	鑑賞研究講演会	140,000	76,000	64,000
	鑑賞研究見学会	1,680,000	290,000	1,390,000
	庭園協会賞講演会費	0	5,000	△ 5,000
	機関誌「庭園」売益	600,000	618,000	△ 18,000
	庭園協会賞講演加費	200,000	842,400	△ 642,400
	受託事業費			
④受取寄付金	受取寄付金		4,170,000	△ 4,170,000
⑤雑収益	広告収入	100,000	0	100,000
	受取利息	30,000	52	29,948
	雑収益	0		
事業活動収入計		9,495,000	13,416,524	△ 3,921,524
（2）経常費用				
①事業費		7,165,000	3,398,784	3,766,216
1-1	広報委員会費	1,100,000	1,478,249	△ 378,249
1-1-1	会報発行印刷配布費	800,000	1,215,809	△ 415,809
1-1-1-1	会報印刷費	450,000	514,009	△ 64,009
1-1-1-2	会報郵送料	350,000	701,800	△ 351,800
1-1-2	会報取材編集費	100,000	100,000	0
1-1-3	「庭園」発行費	0	0	0
1-1-4	協会パンフレット作成費	200,000	162,440	37,560
1-2	鑑賞研究委員会費	1,870,000	486,985	1,383,015
1-2-1	鑑賞研究講演会費	270,000	87,134	182,866
1-2-2	鑑賞研究見学会	1,600,000	399,851	1,200,149
1-3	技術委員会費	1,707,000	970,043	736,957
1-3-1	連続講座費	525,000	490,043	34,957
1-3-1-1	講師謝礼	150,000	180,000	△ 30,000
1-3-1-2	講師旅費交通費	215,000	39,000	176,000
1-3-1-3	事務・会場手伝い謝礼	100,000	75,000	25,000
1-3-1-4	講座会場費	50,000	141,480	△ 91,480
1-3-1-5	講座用事務・消耗品費	10,000	54,563	△ 44,563
1-3-2	地方講演会費	220,000	20,000	200,000
1-3-2-1	講師謝礼	40,000	20,000	20,000
1-3-2-2	講師旅費交通費	180,000	0	180,000
1-3-3	伝統庭園技塾（仙台）	840,000	384,000	456,000
1-3-3-1	講師謝礼	120,000	200,000	△ 80,000
1-3-3-2	講師旅費交通費	120,000	184,000	△ 64,000
1-3-3-3	東日本大震災復興記念庭園築庭助成金	600,000	0	600,000
1-3-4	文化財指定庭園調査会費	122,000	76,000	46,000
1-3-4-1	文化財指定庭園保護協議会年会費	10,000	20,000	△ 10,000
1-3-4-2	文庭協総会負担金	112,000	56,000	56,000
1-4	国際活動委員会費	138,000	78,267	59,733
1-4-2	本部会議時国際委員交通費補助	96,000	0	96,000
1-4-3	NAJGA 年会費	42,000	63,987	△ 21,987
1-4-4	国際交流費	0	14,280	△ 14,280
1-5	文化財指定庭園調査・修復費	1,350,000	385,240	964,760
1-6	100 周年記念事業積立金	1,000,000	0	1,000,000
②管理費		4,975,259	5,212,453	△ 237,194
2-1	定期総会費	700,000	864,000	△ 164,000
2-1-1	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	70,000	71,560	△ 1,560
2-1-2	総会用事務・消耗品費	15,000	0	15,000
2-1-3	総会資料印刷	15,000	0	15,000
2-1-4	庭園協会賞講演会費	600,000	792,440	△ 192,440
2-2	本部諸会議費	197,000	104,652	92,348
2-2-1	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	10,000	2,500	7,500
2-2-2	会議時飲食代	100,000	4,796	95,204
2-2-3	会議用資料コピー代	3,000	0	3,000
2-2-4	会場代	20,000	47,520	△ 27,520
2-2-5	地方役員交通費補助	14,000	26,000	△ 12,000
2-2-6	常務理事会会議費	50,000	23,836	26,164
2-3	支部委員会費	60,000	228,720	△ 168,720
2-3-1	支部長会交通費	60,000	219,000	△ 159,000
2-3-2	支部長会会場代	0	9,720	△ 9,720
2-4	事務局職員給料	1,000,000	958,800	41,200
2-5	事務局職員交通費	240,000	200,420	39,580
2-6	ホームページ運営管理費	146,000	199,562	△ 53,562
2-7	渉外慶弔祝賀費	200,000	126,200	73,800
2-7-1	渉外費（関係団体賛助金、接待費）	60,000	100,000	△ 40,000
2-7-2	慶弔費	60,000	26,200	33,800
2-7-3	支部活動お祝い金	80,000	0	80,000
2-8	本部役員地方出張旅費交通費	100,000	0	100,000
2-9	通信費	385,000	627,696	△ 242,696
2-9-1	郵便・配送費	300,000	523,261	△ 223,261
2-9-2	電話料	85,000	104,435	△ 19,435
2-10	事務用品・消耗品費	300,000	347,273	△ 47,273
2-11	宣伝広告費	110,000	86,400	23,600
2-12	光熱費	55,000	51,978	3,022
2-13	賃借料	1,179,259	1,102,116	77,143
2-13-1	事務所家賃	1,002,859	925,716	77,143
2-13-1	コピー機リース料	176,400	176,400	0
2-14	租税公課費	70,000	0	70,000
2-15	銀行手数料等	90,000	96,076	△ 6,076
2-16	顧問料			0
	会計事務所顧問料	164,000	164,000	0
	法律事務所顧問料	0	44,530	△ 44,530
2-17	諸雑費	10,000	10,030	△ 30

科　目	予算額	前年度予算額	増　減
経常費用計	12,140,259	8,611,237	3,529,022
当期経常増減額	△ 2,645,259	4,805,287	
当期収支差額	△ 2,645,259	4,805,287	△ 7,450,546
前期繰越収支差		350,353	
次繰越収支差額	△ 2,645,259	5,155,640	△ 7,800,899

収支計算書に対する注記

1．　資金の範囲

資金の範囲には、現金及び預金、未収会費、立替金及び未払金、前受会費、仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記 2．に記載するとおりである。

2．　次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期末残高
現金及び預金	1,474,826	7,226,529
前払金	77,143	77,143
貯蔵品	393,000	114,000
合　計	1,944,969	7,417,672
未払金	164,848	97,200
源泉所得税預り金	15,504	18,567
震災復興庭園寄付預り金	423,000	-33,398
仮受金	0	11,001
合　計	603,352	93,370
次期繰越収支差額	1,235,464	7,324,302

貸借対照表

平成 29 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	金　額	科　目	金　額
Ⅰ　資産の部		Ⅱ　負債の部	
1．流動資産		1．流動負債	
現金	60,080	未払金	97,200
普通預金	4,705,745	震災復興庭園寄附預り金	△ 33,398
振替預金	852,885	源泉所得税預り金	18,567
通常預金	107,776		
定期預金	1,500,043	流動負債合計	△ 14,831
		負債合計	
前払金	77,143		93,370
貯蔵品	114,000	Ⅲ　正味財産の部	
		1．一般正味財産	7,324,302
流動資産合計	7,417,672	正味財産合計	7,324,302
資産合計	7,417,672	負債及び正味財産合計	7,417,672

財産目録

平成 29 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
現金預金	
現金手許有高	60,080
普通預金　みずほ銀行　江戸川橋支店　1716382	557,275
普通預金　みずほ銀行	1,000
普通預金　ゆうちょ銀行（寄付金）	4,147,470
振替預金　ゆうちょ銀行　＃00110-5-76081	852,885
通常預金　ゆうちょ銀行　＃10040-50368701	107,776
定期預金　みずほ銀行	1,500,043
前払金　家賃前払	77,143
貯蔵品「日本の庭を彩る」／「庭園」復刊 10 号	114,000
資産合計	7,417,672
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
未払金※	97,200
震災復興庭園寄付預り金	△ 33,398
源泉所得税預り金	18,567
仮受金	11,001
負債合計	93,370
Ⅲ　正味財産	7,324,302

※未払金内訳

ウェブサイト管理費	97,200
	97,200

監　査　報　告　書

下記監事 3 名は、一般社団法人日本庭園協会 において、会長の提出した平成 28 年度における会務の執行を総括した会費収入の「事業活動支出」の内訳並びに「収支計算書」「正味財産増減計算書」「貸借対照表及び財産目録」等につき監査した。

監査の結果、会務の執行は当該協会の定款に基づき誠実に行なわれており、正確に処理されていることをみとめます。

平成 30 年　3 月　8 日

一般社団法人　日本庭園協会

監事　野村 脩／同　大成 白歩／同　高梨 節子

百周年記念　東日本大震災復興記念庭園開園する

伝統庭園技塾　平成30年5月15～17日
開園式・完成式典　平成30年5月18日

道程

西窪　周二郎

ここでの文章では庭園の素晴らしさ、美しさ等について書くことは致しません。直接観て頂いて各々が感じて頂ければと思っているからです。ただこの庭園を創るにあたって企画、運営された宮城県支部の方々の血の滲むような苦労と情熱を自分の知っている範囲で綴りたいと思います。

２０１１年３月11日東日本大震災が起こり、未曾有の大被害をもたらした。それに伴い日本庭園協会東北支部は解散しましたが、わずか２ヶ月後に宮城県支部として有志の方々が発足させました。

実のところ震災の数ヶ月前には後に伝統庭園技塾の場所となる大義山覚照寺（宮城県大和町）の現地調査などは済まされており、ここで伝統庭園技塾を開催する予定でしたが、震災の影響により約2年間計画は止まったままでしたが、情熱の火が消えることは無く２０１３年10月、覚照寺にて5ケ年計画での伝統庭園技塾が開催される運びとなりました。

現地での第一印象は、三方を山に囲まれ、北側は笹倉山の借景、元々沼地で水の溜まりやすく、高低差もあり、池泉廻遊式庭園を造るにはとても条件の良い立地だと思いました。それはもちろん支部の方々が速やかに開催できるように事前に整備している訳で整備前の写真には驚きました。

既存樹の伐採、間伐、間引いたスギ材を地盤の緩い場所へ敷き込んだり、間伐材は製材所へ運んで、無駄の無いようにしています。後々作られる休憩所の柱などもここでの間伐材を寝かしておいたうえで使用しています。その他の石材なども津波で流されて行き場のない石や支部会員の手持ちの材で賄っています。もちろん皆様無償で提供しています。

開催から3年程経つと過去に施工した箇所が台風や局地的豪雨でコケ、土砂の流出や真横の山から堀取った樹木の倒木等もあったようですが、支部会員の方々が協力しあって復旧しています。

自分達受講生がスムーズに学べるよう尽力して下さった方々には感謝の想いが絶えません。

今年、日本庭園協会百周年に合わせ5月18日に無事開園式を迎えましたが、これは一つの区切りであって覚照寺の庭はこれからも続いて行く気がしてなりません。

（正会員　神奈川県支部）

庭師としての復興

生熊　孝至

今日の伝統庭園技塾に参加させて頂いたのは講師の方の中に竹田利光さんの名があったからです。それは10年以上前に竹田講師と互いの実力を見せ合う約束をしたのですが、自分は良い結果を残せず約束を果たせぬままだったので、震災の復興支援と竹田講師への謝罪、そして自分の庭師としての復興が目的で参加させて頂きました。

5月15日いよいよ実技研修初日、まずはシラカシの掘取り作業でした。自分は2本掘って汗まみれ泥まみれなのに、講師の桃井雅彦さんは一点の汚れもなくさわやかな顔で、2本掘り終えていました。さすがだなぁと思い話を聞くと、ひざを付いて作業をしてると見た目が良くないからと言って頂き初心に帰る思いでした。伊藤一郎講師には沢山仕事をして来た手をしているなぁ、と褒めて頂きました。そう言う伊藤さんの手は、自分の何十倍も働いて来た手をしていたのを覚えています。

開園前の仕上げに熱心に取り組む

5月16日（実技研修2日目）は、横山英悦講師の指導のもとで、石積を手伝わせて頂きました。近年崩れ積みなどの施工はあまり無く、石の向きで迷っていると、横山講師がその石を簡単に決めて見せました。そこで石は3点で決めることや今回のコンセプトに合わせた積み方を教えて頂きました。そして何より、一度クレーンで吊ってもらった石を他の石に換えようとした時に横山講師が駆け寄って来て、「いいからその石で決めてしまえ」と一喝され、完全にスイッチが入りました。その後の石積作業は一心不乱、迷いが吹っ切れて、作業はそれなりにはかどった気がします。本当に楽しかった。講師の横山さん並びに同じ班で作業した皆さん有難うございました。

5月17日（実技研修3日目）は、コケ貼り作業でした。庭の最上部にあたる貯水池の堤体付近で作業していると、内田均教授が声を掛けてくださり、今コケ貼りしているこの堤体法面の石張は、ロックフィルと呼ばれる工法だとか、宮城県支部の方が貯水池にボートを浮かべ、池回りの樹木の剪定をして下さっていることなどを教えて頂きました。きっと、私がこの覚照寺での技塾初参加ということで、気を使って頂いたのだと思いました。

そして、5月18日最終日は、小雨の中、内覧会を迎えることができました。雨に濡れた庭園は、最高の色彩を放っていました。そんな感動覚めやらぬ中、祝賀会に参加させて頂き、大変光栄でした。

この作庭の企画、準備をして下さった役員、講師、宮城県支部の皆様、一緒に汗を流した塾生の皆様本当に有難うございました。

今回皆様から頂いた刺激を今後の作庭意欲向上の糧としたいと思います。これこそが、もう少し若い時の作庭意欲満ち溢れていた頃の自分への復興だと思います。

（会員子弟　静岡県支部）

流水不腐

伊藤　玲雄

この事業に参加した6年間、私自身多くの経験をさせて頂きました。プライベートでは結婚・出産・子育て等、その中で「東日本大震災復興記念庭園」に初年度から全日程参加できたのは、ひとえに家族の理解があってこそでした。

きっかけは父の勧めでした。それまで実技講座は受けたことはあるものの、当事業のように4泊5日かけ毎日「庭」や「仲間」と対話できるのは、希少な機会と思い、意を決して参加させて頂きました。

最初は知り合いもおらず不安な気持ちでした。しかし、講師の方や宮城県支部の方の細かな設え、また全国各地から参加する塾生の方々の温かくも熱い技塾への向き合い方をまのあたりにし、初めの不安な気持ちはすぐに消えました。この事業の醍醐味は、同じ釜の飯を食べ、毎日違う内容で作業ができ、普段では扱えない材料に触れさせてもらえることです。日を追って塾生の顔が活き活きとしていき、また、年を追って塾生がより逞しくなっていく。そんな姿を間近で見せてもらい、自分にとっても良い刺激になりました。

今回一番驚いたことは庭園の入口に石碑が建っていたことでした。そこには庭園の名前はもちろん、この庭園に懸ける背景や想いが綴られていました。

また別の石碑には、この技塾に関わった方の名前が刻まれていました。それを見て、ハッと気付きました。私たち塾生は大きな「愛」に包まれていたのだと。私は、このような場を提供して下さった日本庭園協会、そして宮城県支部の方々に感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございます。

園路脇に下草を植え付ける

そして今回無事、東日本大震災復興記念庭園の落成の場に立ち会うことができました。とても感慨深かったです。まるで我が子を披露するが如く、足を運んでくれた人達が笑顔で庭園内を鑑賞している姿を見ていると、これまでの6年間の軌跡が想起され身体が震えました。あれは今まで味わったことの無い感覚でした。

私はこの事業のおかげで多くの仲間ができました。考え方や技術、お酒の注ぎ方まで教えてもらいました。「庭師」として、「人」として、「親」として、多くのことを考えるきっかけを得ることができました。それは日々の生活や仕事に大いに役立つものばかりでした。

私はこの繋いでもらえた「縁」を大切にしながら、地震で得たこの機会を「自信」に繋げ、今後の人生の中でしっかり「恩返し」していきたいと思います。そのためにも、いつも理解し、支えてくれる家族をしっかり守りたいと思います。そして、背中を示した先輩方に負けぬよう、この『想い』をさらなる世代へ受け渡していきたいと思います。

（会員子弟　岩手県在住）

アメリカ組顛末記

小林　竑一

２０１１年３月11日昼頃、中国深圳（しんせん）に勤務していた所の同僚所員より日本での大地震大津波の知らせがもたらされました。これが私の東日本大震災復興支援に関わり始めたきっかけでした。中国ではそれからまだ２年間働く予定でしたので、すぐに現地に赴くこともならず海外からの震災支援の検討をし始めました。

私はプロとして震災からの復興計画の準備に関心があり陸前高田を対象に私の考えを発表したりしてきていました。その時日本庭園協会の覚照寺における事業計画を見つけ出しました。

私は２００４年に現在の北米日本庭園協会の前身であった国際日本庭園協会主催の第４回シアトルにてのシンポジウムを開催しました。

そのようなご縁ができまして、北米日本庭園協会フロリダ大会の折に高橋康夫氏（現会長）の承諾のもと覚照寺での技塾への参加者を募りました。翌年の２０１５年に５名の参加者と共に北アメリカ組を結成し仙台に赴きました。この参加は一応北米日本庭園協会の了承を受けて行いますが、あくまでも私個人の企画で全責任を私が負っています。今後は北米日本庭園協会が日本への派遣窓口になるよう是非日本庭園協会から要請しては如何かと考えます。

覚照寺本堂においての開園法要

これらすべての経緯に先立ち私は現地見学と宮城県支部の皆様、菊地正樹、横山英悦、伊藤一郎、竹田利光、熊谷裕典５氏らと会食し、彼らの想いを学び、アメリカ組の参加の意を強くしました。これまでに北アメリカ組の参加者は延べ20数名となりましたが、その背景は様々です。私としては前代未聞で意義深く、そして将来に向かっての展望に深く影響を及ぼすであろうこの庭づくりからは数多くのことを学び、また様々な心を打つ人々と出会いました。

このすべての中で私が一番心を深く打たれるのがこの壮大なプロジェクトのリーダーと言える支部長の菊地正樹氏です。大手術を受けて回復の途中なのに、その元気な姿に接せられたことは本当に幸いでした。彼のこれまでの経験や情熱と様々な人々を懐深く受け入れられてきたその性格、その下で多くの人々が惹きつけられ、この大事業も進展してきたことを大勢の友人から聞いております。また、横山氏たち、指導者の皆さんにも交流できたことを深く感謝しております。今年の９月にはポートランドの北米日本庭園協会の大会においてこの壮大なプロジェクトの達成を世界に向けて発表を予定しており、是非とも全員参加に向けて世界に叫びましょう。

（アメリカ　シアトル在住）

庭は平和の空間

リンダ・マシュズ

２０１１年に東日本大震災で被災された東北地方の再生に大きく貢献されている団体の活動に加われて光栄に思っています。大義山覚照寺、お寺の隣で築庭をする独自の文化体験、その輪郭と意義が徐々に明らかになってきました。２０１７年に初めて加わった作業期間中、どれほど広範で多く日本庭園協会、彼らの同僚や友人、そしてサポーターが参加していたのかまったく把握していませんでした。数百人の専門家が共通の目的でコンセプト、資金調達、設計、敷地の整備、日々の植え付け、石を敷き、木の移植や水の創り等に関わり、率直に言って組織的な奇跡でした。

毎日この様な作業班に任命されたことをとても幸運に感じました。彼らが私のような初心者の手にこの素晴らしい庭の一部を委託してくれたことが未だに信じられません！徐々に、私は作庭家が伝統的な日本庭園を通して平和の空間を造り出していることに気付き、そこには静かな池を満たす小さな滝に目が留まり、思案ができるひっそりとした場所に迷い込み、その後に石橋を渡って水域に入りストゥーパ（仏塔）の彫刻に誘います。それぞれの曲がりには感動できる景観、精神、自然、または祈りの風景が待ち受けていました。さらに、庭園内の素材は被災してしまった多くの庭園廃墟から救われたことを知ると、本当に思い出で溢れている場所に入り込んだことを感じさせられ、また、これらは築庭に携わった全員の技術と献身の産物であり、永遠に失われたり変わってしまった多くの人生に相応しい記念庭園でした。

（アメリカ　サンタバーバラ在住）

熱い気持ちが宿る庭

大渡　浩平

私、大渡はアメリカ、南カリフォルニア州サンディエゴを拠点として１９９０年から造園設計、施工の事業を展開しています。コンテンポラリーまたはモダンな日本庭園を基調にしたデザインを提供しています。雨の多い四季がはっきりとした気候である日本の造園と違い、暖かい、雨の降らない乾燥した気候の南カリフォルニア州での造園は難しいことが多いのですが、なるべく日本庭園という本来の定義を崩さないように外国での日本庭園の普及に努めたいと思っております。

開園式典で表彰された塾生と菊地副会長ら協会役員の方々

５月18日に行われた東日本大震災復興記念庭園開園式に参加させて頂き、心から感謝しております。アメリカからも多くの参加者があり、驚いています。さらに私たちが到着する３日も前から実地の研修会にも参加されたと聞き、関心の高さを窺うことができました。私が実際に歩いて見て感じた庭の風景と、震災後、多くのボランティアの人達、それらを導かれたリーダーの方々の御努力、そして様々な困難を想像しながら書きたいと思います。

現地でのオープニングでは雨の少ないカリフォルニア州から来た我々にとっては、傘をさして多くのボランティアの人たちが手がけて完成した庭を歩くことだけでも嬉しい気持ちでした。造園を手がける私は、設計段階から長年にかかる施工を延３５００人のボランティアの方々の力で完成させたことは並大抵のことではないと感じました。

デザインは回遊式の小道があり、池があり、流れがあり、滝があるという伝統的な日本庭園で、歩きながら多くの場所で立ち止まり、感心しながら、メモを取ったり写真を撮ったりしました。我々が住むカリフォルニア州との比較をしたり、石の据付の方法や感性を感じ取ることができました。石の使い方は何処をとっても感銘を受けました。特に滝の上に被さるような使い方は自然の滝をそのまま見ているようです。造園の設計・施工をする者として非常に尊敬できる庭と感じました。

この庭には多くの人の復興にかける熱い気持ちが、一つ一つの石、大きなものから小さい物にも宿っていて、それらを実際に感じながら歩いた有意義な時間でありました。

（アメリカ　サンディエゴ在住）

カナダからも見守っています

エレン・ウッズウォース

大震災の復興記念庭園として、この美しい聖地を準備する活動に少しでも貢献できたことを深く感謝致します。素晴らしき庭園の写真を多くの友達と共用し、自分のフェイスブックページにも載せて頂きました。築庭に関わったすべての人に改めて熱心な働きと努力に感謝したいと思いました。いずれ英語のホームページが完成することを願っております。そうしたら、多くのカナダ人にも貢献して頂き、記念庭園を訪れて欲しいと思っております。皆さんにお会いできてとても光栄でした。

その後、福島市への訪問で見た汚染された大量の土壌に驚きました。政府がすべての汚染物質を撤去することを知りましたが大変心配です。また、子供の咽喉癌率が２，０００人当たり約２％から２００人当たりに約２％になっていることも学びました。

（カナダ　バンクーバー在住）

開園日前日まで作業し下草を植えるエレンさん

これまでの海外からの参加者

FrancheskanSnyder、アメリカ
Jacob Kellner、アメリカ
Jeffrey Burton,アメリカ
Don Chamberlain、アメリカ
Pura、アメリカ
David Goto、アメリカ
Linda Mathews、
Alec Wilcynski,アメリカ
Eureka Koayashi、アメリカ
Ellen Woodsworth、カナダ
Joy Sunahara、カナダ
Kohei Owatari、アメリカ
Sakiko Kasai、アメリカ
Koichi Kobayashi、アメリカ

鑑賞研究委員会

平井 孝幸 講演会「わが師飯田十基と親方学」報告

坂井 昌子
平成30年3月16日

前日の春の嵐もおさまった4月15日（日）、50名を超える皆様を目白の日本女子大学櫻楓会館の一室にお迎えし、講演会を開催することができました。

講師の平井孝幸氏は１９５１年生まれ、東京農業大学造園学科卒業、現在家業を継ぎ、東京都西東京市にある（有）石正園代表で、当協会の理事、ご存知のとおり著書、テレビ出演多数の人気造園家でいらっしゃいます。

昨年初夏、鑑賞研究委員会主催の「中央線沿線の庭を巡る見学会」の下見に平井氏をお訪ねし、絶妙なトークに魅せられこの講演会が決まりました。石正園は東京にはもはや見ることの少ない広い雑木林の中に苗木はもちろん、韓国の道祖神、石燈籠、水鉢などが散在し、資材置き場、ご自宅に囲まれて事務所があり、一見緑豊かなお散歩コースのようにも見えました。

平井氏は高校生の頃から家業を継ぐことを考え、休日には日本中の庭園やお寺などを巡っていらしたそうです。東京農業大学3年生の折に初めて飯田十基師に触れる機会を得て、不二迎賓館の庭園などの作品に、これまでにないショックを受けたそうです。人が造った庭とは思えない程感銘を受け、卒業後すぐにも門下生に志願したかったそうですが、その前に地掘修業が待っていました。1年のつもりがあまり強健ではない平井さんにはつらい体験でご本人によれば劣等生で、気合が入らず2年に及んだとのことです。

飯田十基師を初めて初台のお宅に訪ね、平井氏はあまりの空気感の違う別世界が広がっているのを見て本当に植木をやっていくことを考え始めたそうです。飯田師は「四方仏の水鉢には方位がある。ノートに書いておくので調べてごらん」と言われたそうです。それを契機に燈籠や水鉢に書いてある梵字や蓮の形などを調べ、仏教の勉強も始め、本気でお茶を習い、燈籠を作る話があった時には韓国へ行き「国宝」という本を石屋の書棚で見つけるや、すっかり魅せられて韓国中歩かれました。また植木職人として品位を身に着けるべく日本の一流料亭も訪ね歩いたそうです。

平井孝幸氏（左から３人目）を囲むスタッフの方々

韓国の田舎を一人で巡るのは難しく、平成元年からは、研修旅行としてお弟子さんを連れて行くことにしました。経費の捻出、旅程、見るべきものなど、お弟子さんが段取りをし、そして帰国後はレポート提出が義務づけられているそうです。高級料亭での研修は庭だけでなく、掛け軸、香炉、お香、花入れなどについても調べ、質問を分担し、洗練された料亭の女将の足音が中居さんとは違うことまで感じ、普段注意を払わないことに気付く訓練をするのだそうです。ダンボの耳で聞き、こだわりを持って学び、体験していくことが大切であると考え、京都や東京の老舗を見るにつけても、強いこだわりをもっているから、長い時代を生き抜くことができるのだと感じるそうです。

質問タイムに入り、タイトルにもある「わが師飯田十基」についてもっと伺いたいとの質問には「一つのことを成し遂げた余裕のあるおじいちゃん、人間が違う」とのみ答えられました。それはあたかも多くを語らないけれど弟子のやる気に火をつけた、飯田十基師の教えを受け継いだ親方のように思えました。

（評議員　鑑賞研究部）

緑と水の市民カレッジ　内田 均 講演会

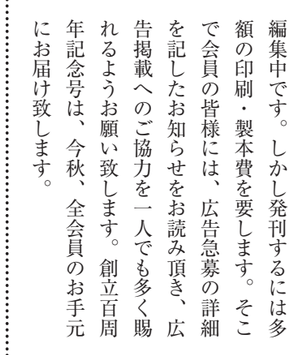
「みんなの緑学」講座 ―日本庭園の竹垣・植栽・管理技術と鑑賞術― 報告

本川　勇
平成30年1月20日

緑と水の市民カレッジで行われた日本庭園の竹垣及び管理技術と鑑賞術を受講しました。講師は東京農業大学で教鞭をとっておられる内田均先生でした。

造園職人を長くやっている者にとって竹垣はごく身近であり、特に想定外の話はしないだろうと思う反面、竹垣一つにしても極めようと思えば限りなく奥の深いのがこの世界。何が飛び出すのか秘かな期待を持って教室に入って行きました。熱心な参加者のほとんどは一般の方たちのようで、60代、70代の年配者に混じって30代と思われる若者も数人来ていました。

竹垣については発生した時代別に分けられ、また使用される主な目的と場所などを整理した内容で示され、図解も含まれた分かりやすい表を頂きました。その中でも個々の竹垣が発生した時代について、江戸時代前期に現在著名な竹垣のほとんどが存在していたことは知りませんでした。また60数種余りの竹垣があることも想像以上で驚きました。今の時代、竹垣を望む人が減り続けているのが実情です。東京とその周辺では珍しくなったせいか、ある日神保町辺りを通りかかった際、歩道のあちこちに四ツ目垣があるのを見て何やらほっとしたことがありました。造園業者としてはなるべく施主に竹垣を勧めることと、その場に合うようにアレンジを心がけているつもりです。ことのついでに私事を厚かましく言わせて頂きますと、当節すっかり広まったプラスチック製の竹垣ですが、望まれたお客様には必ず熱心に本物の竹の使用を勧めます。微力であっても我々がやらなければ誰にできるのでしょうか。竹屋さんなどが同じ思いを持っていても直接施主に接する機会がないのです。庭園協会会員の皆さんにこの場を借り「本物の竹を使おう」と提案したく思います。


研究成果を披露する内田均講師

丹念な説明に聞き入る

庭園の鑑賞については、天龍寺はじめ京都の五庭ほどの説明がありました。お馴染みの誰もが知っている名庭でしたが、その話の中で感心したのは、内田先生は毎年京都に行き、著名な庭が年月を重ね変化する姿を、根気よく記録に取っておられることでした。庭をこよなく愛し、地道に研究される先生に、今後も末永く日本庭園の魅力を語り広め、日本庭園協会を見守り続けて頂きたいものだと思いました。現場の者ではできないことが多々あると思うのです。

（評議員　神奈川県支部）

本部からのお知らせ

私たちの日本庭園協会が間もなく創立百周年の佳節を迎えようとしています。今秋の10月21日（日）、本協会との縁（えにし）も深い日比谷公園内の松本楼で盛大に祝賀会を開く予定です。これに合わせて、創立百周年記念号の発刊をすべく一昨年に新たに百周年記念誌出版委員会を結成し準備を始めてきました。

酷暑の今夏、その記念号の概要がようやく整ってきましたのでお知らせします。機関誌『庭園』創刊号に掲載された設立趣旨の復刻文から始まり、本協会の百年の歩み・伝統技術の継承・文化財庭園と本協会の関わり・海外との交流・全国19支部の歴史と活動・百年先へ伝える会員の声・百年の歴史を記した年譜等々、百周年にふさわしい盛りだくさんの内容となりました。

この記念号、百周年の佳節を百年先に伝える一つの記録として鋭意に編集中です。しかし発刊するには多額の印刷・製本費を要します。そこで会員の皆様には、広告急募の詳細を記したお知らせをお読み頂き、広告掲載へのご協力を一人でも多く賜れるようお願い致します。創立百周年記念号は、今秋、全会員のお手元にお届け致します。

平成30年度

支部活動報告

愛知県支部／神奈川県支部／埼玉県支部／千葉県支部／石川県支部

愛知県支部
第10回　石積講座
ー外部空間に石積の景を取り入れるー
平成30年4月21～22日

自分と向き合った2日間　小俣　聖

庭園協会ニュースへの原稿を依頼され、今回参加した2日間の講座をじっくりと振り返ってみた。するとこの講習を通じて、私の庭師としての今後を左右するといっても過言ではない「心の弱さ」というものに気づくことができた。感銘を受けた講習の内容や講師の方々の人柄といったことなど書きたいことは様々あるが、今回は主にそのことについて述べたい。

他の庭師をも唸らせるほどの技術と一定のレベルに達したある程度の技術。石積に限った話ではないが、庭師の多くは前者のような技術を習得したいと思っているかと思う。私も漠然とはそう思っていた。しかし、そのような技術を習得するためには自分の弱さに打ち克ち、それを支えるための覚悟が必要であると、この石積講座を通じて学ぶことができた。

講座の際に渡されるテキストは石積の作法や手順が鈴木富幸講師の長年の経験を基にした理論に則ってまとめられている。この理論を完璧に体現することができれば石積完成度として他の講師の方々も口を揃えて言うように、庭師が目指すべき一つの高みに到達できるほどのものであると断言できる。しかし、実際に自分で石積を実践してみるとテキストに写真で掲載されている鈴木講師の石積には遠く及ばないものとなってしまう。その原因は技術的な問題以前の私自身の中にある心の弱さによるものだった。

石積はまず、一番下に根石を据えていき、その後順に上へ進めることになる。その際に上に積む石の多くは、素のままでは安定しないため石道具を用いての加工が必要となる。その後一石ずつ進めていくごとに上下左右すべての石の噛み合せを整えることで構造的、視覚的にも安定し美しい石積となる。

この石の加工が初心者には鬼門で、私も時間をかけてやっとできあがりそうな石が最後の最後で意図せぬ方向に割れてしまい、それまでの作業が台無しになってしまうということが度々あった。このようなことが続くと心が折れ始め、作業を進めるうちに「このくらいできていればいいか」といった心の弱さが顔を覗かせ始める。すると次第に噛み合わせの悪い部分が散見されるようになり、徐々に鈴木講師のような美しい石積から遠ざかっていく。

手際よく加工する技術も効率的に作業を進めるうえで必要ではあるが、それを持ち合わせていない私があの時すべきだったことは例え時間が掛かっても逃げることなく、鈴木講師の教えに沿って忠実に作業を進めることであった。あの時、あの場所に積んだ石は「お前はどれほどの覚悟をもって一流の庭師を志している?」と私に対して無言で問いかけていた。人から問われれば、口先のみで語れるかもしれない。しかし、私が手に持っていた石は常にそれを問いかけ続け、行動によるその答えを求めていた。このことを今更になって気付き、中途半端な仕上がりで講習を終えてしまったことを後悔している。

この講座の最後、講師の一人が「最後は自分自身との勝負」と言っていた。そのときは精神論めいたものかと思っていたが、これは一流の庭師を目指すために必要なものの核心をついた一言なのだと今なら理解できる。自分の心の弱さからくる「これ位でいいか」という気持ちに打ち克ち、庭師としての高みを目指す覚悟がそれを支えるようになるはずだ。

取り組んだ石積みの前で

講座終了後、自分の石積を写真に撮った。そこには噛み合わせの悪い状態で積まれた石達が私の弱さを映し出すように積まれていた。これは石積というものに留まらず、この世界で生きていくと決意したはずの私の弱さを表す動かぬ証拠である。この写真は今後も仕事を続けていく中での戒めとして大切に保存していくつもりだ。また弱い自分が出てきたときにこの写真を見て、この気持ちを思い出して仕事に打ち込んでいきたい。

末筆にはなりますが、このような場を設けて頂いた株式会社おしゃ楽の田中正巳社長、暑い中、体調を気遣い飲み物やアイスといった差し入れをくださった神谷氏をはじめとしたスタッフの方々、そして厳しくも愛のある指導を頂いた鈴木庭苑の鈴木富幸氏、小泉植物園の小泉吉永氏、兼創園の兼子博行氏、梅村庭園の梅村龍太郎氏、森造園土木の森和生氏といった講師の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。帰り際にお声がけ頂いた「頑張れよ!」「いい庭師になれよ!」といった激励に応えられるように日々精進して参ります。

（正会員　神奈川県支部）

神奈川県支部
石畳実技研修会
小田原　総世寺
平成30年4月20～22日

日本庭園協会神奈川県支部としての活動の想い　米山　拓未

昨年から、この場所に活動の拠点を移し一年間は支部会員のみの参加で動いてみて、ようやく軌道に乗って来たので今年度から全国に会員の参加を募り動き始めました。清水哲也支部長とも打ち合わせを重ね、庭を構成するパーツの一つだけを講習のテーマとするのではなく、空間全てをプランニングし、それを長いスパンで完成させるという目標を掲げいよいよ始まりました。

作業前に細かく説明する河西力講師

それにはまず、活動場所を決めるのが大きな課題となり探していた所、総世寺ご住職の私達の活動への寛大なご理解の下、場所を提供して頂くことになりました。またお寺関係の責任者でもある小泉氏の協力があり、講習会の準備段階の掘削や基礎工事などの下準備をして頂けることも、この場所での活動がスムーズに進められる点で大変感謝している次第です。また神奈川県支部は全国の支部の中でも若い会員が多いので、自分が携わった仕事が百年後も残る様な場所での庭作りであるという点も私達の仕事の魅力と伝えています。広い敷地全体の設計はできており、毎年少しずつ進めて行く予定です。

庭は様々な天然素材を用い構成されていて、その一つ一つを毎回の講習会のテーマとしていますが、あくまでもそれは庭を構成するパーツの一つでしかなく、それを引き立たせるための、空間全体の構成を考えられる様になって行くのが大切なことです。「百年後も人々を感動させる庭空間つくりプロジェクト」、平成の時代も終わりに近づく今、益々合理化が進み時間の掛かる手仕事が少なくなり、後世に私達の仕事を伝えて行くのが困難になっている状況の中、神奈川県支部の活動は貴重な場となるでしょう。是非私達のプロジェクトに参加されては如何でしょうか。

（正会員　神奈川県支部副支部長）

河西力氏の講習会を終えて　相田　雄介

昨年より神奈川県支部は、「技術と知識をヒトとカタチで残す」とした50年先を見据えたプロジェクトとして、小田原の総世寺さまの協力を得て講習会をしながら作庭をしています。

今回は石畳の講習会を4月20日・21日の2日間、河西力氏が講師としてご指導して下さるとのことで参加させて頂きました。

初日は半日座学の時間があり、河西氏のこれまで経験した海外での仕事の話、造園界においてのご自身の立ち位置、仕事を文化の一つと捉え繋げていく話などを語って頂きました。

正直、最初はあまりにスケールの大きなお話で、日々目の前の小さな仕事しか見えてなかった自分には理解しづらかったのですが、話を聞くうちに河西氏の考えや思いが分か

班に分かれて石畳の施工に取り組む

り、今まで低かった自分の目線が上がる良い機会となりました。

実地では河西氏に石の選び方、加工、据え方などを披露して頂きました。

手にした石に墨をつけ、あっという間に加工し、次々と据えていくそのスピードの早さには驚かされました。

また石を加工する時の姿勢から、バケツを置く場所、刷毛の水の切り方まで、無駄のない作業ができるよう徹底した仕事ぶりに自分の未熟さやプロとしての意識の低さを考えさせられました。

初日の夜には懇親会があり、河西氏の表情、目、語気を感じながら聞ける話には皆が引き込まれ、質問や意見が飛び交う熱い空間となりました。また普段接することの少ない他県からの参加者とも語り合い、刺激された良い席となりました。

石畳を学ぶために参加した講習会でしたが、技術的なことだけでなく、もっと根本的なこと、仕事に取り組む姿勢や考え方、庭師としての生き方や造園の世界との関わり方、自分にとって大きな転機になる2日間となりました。

今後もまだまだ色々な方に講師として来て頂ける講習会です。

技術以外にも多くのものを吸収して成長できるよう参加して行きたいと思います。

（正会員　神奈川県支部）

埼玉県支部

「庭　創造する思想」

平成30年3月11日

「庭　そして表現すること」

平成30年6月17日

石井　国義

今年度埼玉県支部では、2度にわたり庭のシンポジウムを行いました。埼玉県支部設立から約20年の年月が経ち、その間、支部では様々な活動を行ってきました。

県立いずみ高校での長きにわたった生徒を交えての創作活動を経て、今年は県立近代美術館との共同プロジェクトがありました。その概要は私たちの制作した石積のベンチ「風のカタチ」を美術館のある北浦和公園に設置公開し、庭のワークショップを行うというものでした。これをいい機会ととらえ、庭に関するシンポジウムを提案し、「庭　創造する思想」と題したシンポジウムを、美術館、SMF（サイタマ・ミューズ・フォーラム＝美術家の団体）の協力を得て、美術館講堂にて開催しました。基調講演は河西力氏にお願いして、日本の庭の在りよう、庭師としての心構えから、空間の捉え方、素材の持つ力など、パネリストを交え語り合いました。会場の場所、パンフレットの配布方法、3団体での共催ということもあり、いろいろな職種の方々に参加して頂き、庭の位置を再確認できたという意味もあったように思います。

その後、主題を作庭表現とし、対象も庭師に絞った「庭　そして、表現すること」を行いました。基調講演は河西力氏、パネリストには埼玉県支部会員が登壇しました。

一昨年、河西力氏に自らの作庭例を基に、庭園デザインとその考えの源の講演会をして頂きました。今回のシンポジウムで3回目となり、時を重ね、庭と庭師、作庭家の核心の話となりました。

3度講演して頂いた河西力氏と埼玉県支部の係りは長く、初代支部長、高橋良仁氏との支部設立以前よりの関係から続いています。支部活動の折り目に、永い間見て来て頂いた河西力氏に、支部会員を交えて講演をして頂けたのは、とても有意義であったと思います。

「庭　創造する思想」

3月11日埼玉県立近代美術館講堂にて行いました。基調講演は河西力氏「作庭観（二）」、パネリストに

熱いメッセージを伝える河西力氏

高橋良仁氏（作庭家、埼玉県支部）、絹谷幸太氏（彫刻家）、佐野哲史氏（建築家）、コーディネーターに石上城行氏（埼玉大学准教授）にて行いました。

河西氏の言葉から、基調講演の一部を紹介します。

庭師の仕事は庭を作ることです。それも「飛びっきりのいい庭、二つとない最高の庭を作る人達の働きのことです」

ブラジルでの作庭の話です。「日本の心を持ったブラジルの庭」を作る依頼を受けました。完成後、河西氏指導の下、素人のブラジル人が作ったブラジルの庭、例えようもない美しさを呈するそのものに、ブラジル人の誰もが信じがたい感慨を持ちます。なぜ素人のブラジル人が作り得たのだろうと質問されます。「言い様もなく、それでいて疑い様も無い自分の姿形を、また、その才能のありかを日本の庭は曳きずり出したのです」と答えます。また、どこに日本の心、ブラジルの庭を感じ取るのでしょうか。言葉には詰まりますが、作った彼らの顔を見ればわかります。美術表現と同じに、民族や文化の壁を取り払ったところにある只々美しいものに「その大事＝ブラジルの庭」を見て取れるからではないでしょうか。民俗学者の柳田国男氏の「美しい村」より引用すると、「その美しい村の景観（にわすがた）に人々の幸せな暮らしが透けて見える様である」とも比喩できるのではないでしょうか。ここに関わったブラジル人をここまで昇華せしめた日本人庭師たちの底力に、日本の庭の神髄に触れた心持ちがしたのです。

また、パネルディスカッションでは、各氏のプレゼンテーションの後、ものづくりを通した創造の原点、仕事と表現者、素材との関わりなどを論じました。そして、自分を育てる、人を育てる考え方から、今後のために何が必要かを含めて伝えていきたいこと、またその方法などを語り合いました。各氏による眼差しの違いが鮮明になり、個性がぶつかり合う中に、第一人者としての気概を感じました。

「庭　そして、表現すること」

6月17日さいたま市埼玉会館にて開催しました。基調講演は河西力氏、パネリストに埼玉県支部より、厚澤秋成氏、山際大地氏、山田祐司氏、コーディネーター石井国義でパネルディスカッションを行いました。

基調講演の一部を紹介します。

「いつかは自分の庭を作ってみたい」河西氏と交流のあった鈴木直衛氏がポツリと言ったそうです。「へー自分の庭ねー」「技量を自分のものとして、一人前になることさ」一人前とは、人格も含めて、人と違う自分の庭を作ることかと職人然と河西氏は感じていたそうです。河西氏の言葉です。「鈴木氏の誘いで庭園協会に行くと、そこには、日本の庭園は日本の文化だと思わせるものがありました」「それは言葉ではなく、そこに集う方々の人格に触れ、その感覚が伝わってくるのです。こういう人達を育てるのが日本の庭園の文化だと感じました」。その感じる心こそ庭師の資質であろう、論理的な解釈でなく心の在り方でとらえることこそ、庭師の世界観にとって大事なものである、と続きます。

パネリストの山田祐司氏、山際大地氏、厚澤秋成氏（左から）

「今この時期に自分の庭を作らないで何を作るのでしょうか」現在の社会に生かされている意味を考え、庭師の矜持をしてこの付託に答えることがあなたの使命、生きる意味であると、心よりのエールも頂きました。

また、パネルディスカッションでは、パネリストの方々に、自分の作庭観を語って頂き、河西氏を交え、自然観、日本の文化伝統についてなどを論じる中で、自身の作庭表現、美術表現を探ることを会場の参加者と共に試みました。私達、支部会員を代表したパネリストなので、参加者おのおのが自分自身のこととして考えを巡らせていたようです。

2回のシンポジウムを通して私達の課題も浮き彫りになり、どう進むべきなのかも見えてきたように思います。

（評議員　埼玉県支部長）

「庭を創る」とは　　野村　ゆみ

3月11日埼玉県立近代美術館にて、作庭家河西力氏の基調講演、埼玉の作庭家高橋良仁氏、彫刻家絹谷幸太氏、建築家佐野哲史氏を迎え石上城行氏（埼玉大学准教授）のコーディネートでシンポジウムが開催さ

れました。また、6月17日埼玉会館にて前回のシンポジウムを発展させるため、河西力氏の基調講演、埼玉の作庭家厚沢秋成氏、山際大地氏、山田祐司氏を迎えてのディスカッションが行われ、両日とも参加しました。

「庭とは何でしょうか」という河西力氏からの課題から始まり、とある作庭家が外国人に龍安寺の石庭と同じ庭を依頼され、コピーの庭を造ったが、龍安寺の石庭を見た時の感動が無いとクレームになった話を聞きました。施主に頼まれたからといって、その施主のイメージを自分の中で想像し、それに近い庭を造ることが「良い庭・良い仕事」になるのだろうかというものでした。

施主に言われたことをそのまま形にすることは、時として容易であり、「逃げ」かもしれません。施主の気持ちや庭と真摯に向き合っておらず、それは本当の優しさや親切さではなく、偽善かもしれません。また、自分の考えに自信が無いためだと感じました。庭師が自分自身の考えをしっかりと持っていると、自然とアドバイスができるようになり施主の要望以上の庭ができるのではないかと思いました。

また、作庭家高橋良仁氏の言葉に造園業者は「身の丈の庭しか造れない」という発言がありました。これは、作庭家として庭を作るという意識が低下していることと、経済至上主義に走ってしまっていることにより、人づくりがおろそかになったことが要因であるとのことです。

私自身も、工期内に仕上げることを優先する、経済至上主義に走ってしまうこともあります。時としてそれも必要だと思いますが、そればかりにならないように、自分自身の技術・感性・知識を高めて施主の要望を受け入れ、自分にとっても良い庭が創れるよう努力をしていきたいと思いました。

（正会員　埼玉県支部）

千葉県支部
「東京庭めぐり・茶庭に立って学ぼう！」見学会
平成30年6月20日

東京 大本山 護国寺「茶庭の心にふれる」見学会でした！

村田　義雄

一年の活動の中で毎年6月前後に行っている庭園見学会を、今年も会員と会員の奥様や社員を含めて20名の参加で開催しました。

雨の中の見学会風景

今回の見学会を企画したのは、支部技術研修のテーマとして日本庭園と「蹲踞」は切っても切れない関係であることを認識、蹲踞を幅広く捉えた考えの中で、基本を大切にした学びを積み重ねる中で、技術の向上と会員相互の人間関係を築き上げることができる技術研修会をシリーズとして開催したいとの希望もあり、茶庭における「蹲踞」のもっている深みと感性を知ることにより、支部研修会の活性化を図る目的もあり企画しました。

庭園見学をする「護国寺庭園・茶庭」を選んだ理由は、若手会員からの強い要望もあり、庭園協会理事である上野周三氏が茶庭改修した不昧軒、羅装庵・円成庵・宗澄庵と月光殿に付随する「牡丹の間」の中庭を見学して作庭の心の持ち方を学ぶためでした。

上野氏からは「庭を造る時は自分の感覚を大切にして、右か左か迷った時は職人の理屈には理由があるので、諸先輩達からの教えも大切にした中で、狭い感覚から十歩、百歩引いて謙虚な気持ちになることで、見た人の感覚に合うことが大切」と話して頂いたことが印象的でした。

「庭・153号」東京の庭特集に掲載されました六義園近くの閑静な住宅地にある個人庭を上野氏が改造。玄関前の空間は以前は扉と高い塀に囲まれた息苦しい程の空間でしたが、それを回避するのを前提にして、風が爽やかに通り抜ける庭に改造された前庭、和室前の中庭を拝見させて頂きました。

（評議員　千葉県支部長）

その日は外の作業も躊躇するほどの雨でした

星野　国幸

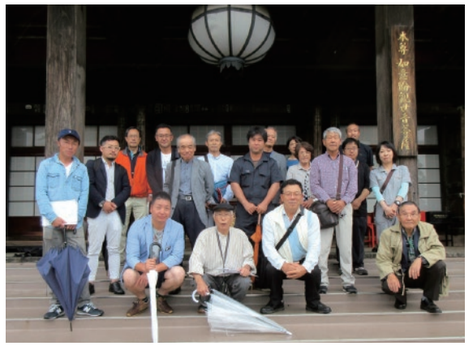
梅雨に入り幾日、雨にも親しみを感じつつも我々日本庭園協会千葉県支部は、東京都文京区にある「護国寺」にて園内の茶庭等も手掛けた前

東京都支部長（有）麻布植祐の上野周三氏と共に今回のテーマである「茶庭に立って学ぼう！」を企画致しました。

園内には多数の寄贈された景石もあり、雨に濡れしっとりとした雰囲気の中、上野氏が手掛けた茶庭を説明して頂きながら研修が始まりました。

雨に濡れることを気にせず上野氏の言葉に何かを学ぼうとする表情は「皆さんやっぱり庭が好きなんだなぁ～」と感じながら茶庭の奥へ奥へと続きます。

上野氏の言葉の中に、自身の価値観、感性も大事に出しつつも相手に対する思いやりや周りの環境など多


護国寺本堂前にて記念撮影

岐にわたる想いが「庭」という空間に現れているんだなぁ～。と思いつつ作庭するにあたり技術だけではない「心」という所を今回の研修で学べたのは大きく得たものの一つでした。

（正会員　千葉県副支部長）

上野周三先生に感謝

秋山　広道

初めて護国寺を拝見させて頂いたのは、平成25年の庭園技術連続基礎講座の第1回目で、上野周三先生の作庭された護国寺の見学会でした。当時の私は、会員になったばかりの28歳で、独立前でした。地割・植栽技法・飛石の据え方等、技術的な所を、目で色々と勉強させて頂きました。

2回目は、高橋真琴人氏のお誘いで、裏千家のお茶会の時でした。私は、初めてのお茶会で緊張しましたが、濃茶の美味しさに驚きました。

今回は、「東京庭めぐり・茶庭に立って学ぼう！」をテーマにこれから支部での実技研修を行う上での、庭に対する考えや、姿勢、作庭方法等を会員と一緒に学びたく上野周三先生にお願い致しました。

牡丹の間のテーマである立体曼荼羅・景石と白砂での表現方法、伝統を重んじ、基礎を守り、新たな挑戦をしている思いを感じることができました。

先人達の思いを受け継ぎこれからの時代に繋げていきます。上野先生貴重な経験をありがとうございました。

（正会員　千葉県支部役員）

石川県支部
版築塀実技講習会
平成30年5月19～20日

版築塀講習会に参加してみて

出島　勇航

平成30年5月19・20日の2日間、私は日本庭園協会石川支部主催の版築塀講習会に参加してきました。

そもそも版築という物を知らず、植木仕事ばかりの私にとって土塀等の構造物はとても勉強になりました。古来より中国や日本で用いられた技法である、砂や石灰等を合わせて、築き固めて型枠の中で何十層と積み上げていきできる土塀は、とても強固で、古代では家屋の壁等にも用いられたと聞き、改めて先人の知恵はすごいものだと、感心しました。

今回の講習では、現代風にアレンジした版築塀として、山砂・川砂・普通セメント・白セメント・砂利・色粉を様々な配合で合わせたネタを作り、皆で各工程を経験し、30層程の版築塀を作りました。ネタを突き固める作業はなかなかの重労働でしたが、2日目に、型枠を外し出て来た美しい版築を見て、びっくりしました。皆で突き固めた版築塀の30工程の色々な層が、あたかも自然にできた地層の様な模様を描き、色のグラデーションが楽しめる物でした。

個人的には、住宅の門柱等に使えば、とても良いアクセントになるのではと、これからの様々な可能性を感じました。とても勉強になったと共に、版築を熱く追究する横田講師、型枠等を丁寧に教えてくれた本田講師、会場を提供し準備してくださった向川支部長他、石川支部の皆様の

現代風にアレンジした版築土塀

情熱と姿勢にとても刺激を受けた講習会でした。

（正会員　石川県支部）

北陸の文化を守りたい

藤本　蔵人

版築塀の講習会が株式会社向川外樹園で開催されました。型枠鉄筋組みに本田壽氏、版築に横田宣郎氏を講師としてお迎えしました。本来の版築を学ぶと共に、現代における庭の機能性、耐久性、調和を重視しながら、鉄筋、モルタル等の新しい建材を取り入れた現代版築塀をご指導頂きました。北陸の環境は湿気、雨、雪など、決して版築という工法にあまり適さない北陸の風土で、どのように版築を取り入れて頂けるのかを話し合い、意見交換しました。

奇しくも前日まで30℃と近くの猛暑日から一変当日は14℃という、正に北陸で版築をどう成功させるかためされているかのような天候の中、仮設で急遽作られたブルーシートの屋根の下で行われました。横田氏には北陸で採取される版築に適した土を2種用意して頂き、普通セメント、白セメントの配合を考えて頂きました。作業半ばから新しい提案や試作、道具まで変化していく生きた授業が講師と受講生の方々の北陸で版築を作る思いの強さを感じました。色に関しても加賀友禅の特徴である落ち着いた色彩の色粉を使い、本来の土の色や質感を重視した方が北陸らしさが出て受け入れられるのではないかという意見もありました。雨量、冬の気温差など、強度や耐久性において不安視されました。それは版築の層を作っていく上で継目に空間があると凍結膨張で破損が生じやすくなるのではないか？冬は灯篭のコモ巻き同様、版築も霜対策が必要ではないか？仕上げの方法も、最後に表面を荒く土感を出しますが、あまり深く荒し過ぎると早い年数で風化が加速するのではないかとの意見も出ました。

2日目は気温があまり上がらなかったものの晴天に恵まれ、剣山、ビシャン、高圧洗浄機、サンダーなど荒し仕上げに適したものは何かと色々な道具を試しました。これに関しては触らない方が美しい、サンダーで撫でてざらつきを持たせる、ノミやビシャンで荒く仕上げる等、受講生が個々に完成の理想形を描いていました。

今回、2日間を通して版築について学ばせて頂きました。と同時に北陸の職人の探求心と温かさを感じ、心新たに精進する気持ちを持ちました。良いものは取り入れる柔軟な発想をもち、人の心をうつ北陸の文化を守っていきたいと思います。

（正会員　石川県支部）

完成した版築塀と参加者達

情熱の人、吉村金男さんを偲んで

龍居　竹之介

長く常務理事などの役員をお願いして、日本庭園協会の運営にお力を貸して頂いた、名誉会員の吉村金男さんが亡くなられた。大正14年4月3日生まれだから、93歳のご生涯であった。近年はあまり外出もなさらないと聞いてはいたが、そのうちにどちらかでお目にかかる折もあるだろうなどと勝手に考えていただけに、お知らせを受けたときにはびっくりした。吉村さんが亡くなるということなど、まずこれまで私の頭の中に思い浮かばなかったからである。それだけ私にとって吉村さんは信念も身体も強靭な偉大な存在であった。なにせ昭和18年の春、東京農業大学の前身である東京高等造園学校を卒業されると、海軍の飛行兵として、不利な戦局の中を生死と向かい合うという精神的にも厳しい体験も積まれた方である。同じ時期に小学校6年の私とは鍛え方がすべてに大違いなのだ。しかも造園の道に没頭された昭和22年から10余年ほどで、早くも造園工の職業訓練指導員に指名された事実からも、猛烈な勉強家だとはっきり分かるし、同時に仕事への情熱の激しさもひしひしと伝わってこよう。その吉村さんはまた好奇心の強さでも群を抜いていた。代表的なのは〈水琴窟〉へのめり込みぶりであろう。手水鉢は身を清めるものとだけ思い込んでいた学生時代、実技と材料に詳しい造園学校の平山勝蔵先生から排水の処理の方法次第で「実に妙なる音が生まれる」ことを教えられたのが、そのきっかけである。平山先生は鳥取の尾崎邸の庭（国の名勝）の調査などでその実態に迫られ、学会誌へも研究論文を寄せられたりと、水琴窟に正面から向き合った方である。当然、水琴窟談義はよく学校でもされたはずだが、強い関心を抱き続けた吉村さんくらいであった。驚くべきはただ知識として身につけただけでなく、即座に植木職だった父君の出入り先の庭につくったことだった。残念ながら説明もせず、もちろん許可もなくの勝手な仕事だったから、すぐ潰されたという。しかしそれで引き下がる人ではない。以後も先生とマンツーマンで勉強は続けられ、後半生には、庭園協会の若手たちの手にその伝統的な技法を伝える形で実を結ばせた。晩年、長年にわたって身につけられた技術を後進に伝えるべく、多忙な時間を割いて執筆に専念されたが、その姿勢の原点にあるのが、私には〈水琴窟〉だとの思いが強い。その吉村さんはゴルフをさせても、瀬田囃子の太鼓の撥さばきでも、芯から没頭できる人であった。でもそうした幅広く物事に親しめることも、人柄に膨らみを持たせた大きな力になっていたような気がする。訃報以来、私の瞼には北村信正元会長のピアノの会の後、いたわり合いつつ家路にと歩む吉村ご夫妻の姿ばかりだ。優しさもまた大の魅力であった。合掌。

（名誉会長）

1990年（平成2年）新潟 五十公野（いしみの）公園にての伝統庭園技塾でつくった滝石組の前で

役員一覧

平成30年度～平成31年度　☆印は新　敬称略　五十音順

名誉会長	龍居 竹之介			
顧問	金子 直作	中村 一		
会長	高橋 康夫			
副会長	菊地 正樹	藤枝 修子		
常務理事	加藤 新一郎	☆加藤 精一	柴田 正文	廣瀬 慶寛
理事	上野 周三	内田 均	☆小沼 康子	高橋 良仁
	☆平井 孝幸	福田 光子	三橋 一夫	山田 拓広
評議員	厚澤 秋成	尼崎 博正	粟野 隆	石井 国義
	石井 敬明	石亀 靖	石川 治壱	磯 守
	岩崎 隆	岡 和生	岡部 敏雄	越智 將人
	落合 悟	小野 登身	河西 力	菊池 正芳
	北村 均	木下 照信	小泉 隆一	☆髙良 啓子
	小杉 忠広	古平 貞夫	後藤 幸雄	☆坂井 昌子
	☆清水 一樹	清水 哲也	菅沼 孝仁	☆曽根 将郎
	高見 紀雄	田中 節照	田中 徳夫	殿井 正敏
	飛田 幸男	豊藏 均	中根 史郎	野村 光宏
	福田 芳野	藤原 忍	星 宏海	本川 勇
	水本 隆信	三宅 秀俊	向川 茂	村田 義雄
	☆望月 敬士	☆桃井 雅彦	横山 英悦	若杉 松男
監事	髙梨 節子	中村 寛	野村 脩	
名誉会員	青木 美樹子	石川 昇造	大平 暁	加藤 雍太郎
	庄司 ヨシ	杉本 大吉	吉村 金男	前川冨士子
	柳 龍子	内藤 操		

本部委員会及び支部組織

本部委員会

総務委員会	委員長	☆加藤 精一	財務委員会　委員長	加藤 新一郎
広報委員会	委員長	柴田 正文	技術委員会　委員長	廣瀬 慶寛
鑑賞研究委員会	委員長	藤枝 修子	国際活動委員会　委員長	三橋 一夫

特別委員会

文化財指定庭園調査委員会　委員長	高橋 康夫
日本庭園協会賞選考委員会　委員長	高橋 康夫
日本庭園協会百周年記念事業実行委員会　委員長	高橋 康夫
日本庭園協会百周年記念誌出版委員会　委員長	柴田 正文
日本庭園協会賞選考規定検討委員会　委員長	高橋 良仁

支部

北海道南支部	支部長	桃井 雅彦	宮城県支部	支部長	菊地 正樹
栃木県支部	支部長	清水 一樹	茨城県支部	支部長	飛田 幸男
埼玉県支部	支部長	石井 国義	千葉県支部	支部長	村田 義雄
東京都支部	支部長	加藤 精一	神奈川県支部	支部長	清水 哲也
新潟県支部	支部長	若杉 松男	石川県支部	支部長	向川 茂
静岡県支部	支部長	石井 敬明	愛知県支部	支部長	高見 紀雄
近畿支部	支部長	山田 拓広	岡山県支部	支部長	三宅 秀俊
広島県支部	支部長	藤原 忍	鳥取県支部	支部長	石亀 靖
島根県支部	支部長	岡 和生	山口県支部	支部長	殿井 正敏
四国支部	支部長	越智 將人			

編集委員コラム

木になる葉なし 10

内田　均

東日本大震災復興記念庭園が今年の5月18日覚照寺（宮城県黒川郡）に開園した。5年半の伝統庭園技塾の成果である。記憶に残る名言が生まれ、作庭での工夫をたくさん目にしてきた。その一部を紹介する。

「水草は石で根を押さえろ」

水中や岸辺にアヤメなどを植える際は、移植ゴテで穴を掘り、そこへ根を高植えにして、株が水で流されないように石で根を押さえるとよい。

水草の根は石で押さえる

「山採り下草は植え穴を掘ってはだめ」

山採りの山野草を植栽する時は、元からその場所に自生していたように植える。植穴を掘らないで、山の上から流されてきた土や雨水で押されて育ってきたように、腐葉土を地面に盛り上げて植え込む。特に、曲がり物があると面白い、と廣瀬慶寛氏は植栽のコツを伝授した。

「池さらいの落ち葉は植栽地に入れろ」

滝壷や流れ周辺を清掃する際、枯れ枝などは処分しても、落ち葉はシダなどの植栽地に入れてやる。そのうちに分解されて肥料となる。

「イノシシよけにはししおどしを」

この庭にもイノシシがコケの下のミミズを食べにくる。そこで、今年、横山英悦氏がししおどしを設置した。その甲斐あり、イノシシもカラスも来なくなった。

ししおどしは、千二百年前に備中平川（現在の岡山県高梁市）の山寺の玄賓僧都（げんぴんそうず）が、筧から竹の筒に水を落としてバランスを崩した竹が石を断続的に打つ音で畑の農作物を荒らすイノシシやシカなどの野獣を驚かせて追い払うために考案したもの。「僧都」ともいう。

現代ではその音色を楽しむために添景物として庭に設けられているが、この庭園では本来の実用本位で用いられている。

「石造品を入れると庭に重みがでる」

昨年、安永年間（1772～1781年）の**「野仏」**を設置した。石の前半分に仏の姿を浮き彫りにした「半肉彫り」の野仏は、道すがらに打った飛石から一石前石を配り、拝みやすいように少し高く据えた。

今年は、菊地正樹氏が秘蔵していた三基の石造品を寄付頂いた（春日燈籠・層塔・雪見燈籠）。

「春日燈籠」は、野仏につながる飛石の「踏込石」（出発点の石）右側に、周囲の景色とのバランスをとり、地震でも倒れないよう高さを抑えて、基壇と基礎を用いず竿を半分程度生け込んで据え、生け込み燈籠とした。

「層塔」は、山の土留石積終点の一段高い場所に設置した。その背後の鳥海石の石積の中には層塔の左右に石仏の頭部を安置した。これは、横山氏が角田市の長泉寺から東日本大震災で被災し首から落ちてしまった石仏の頭部二体を頂いてきたものである。

「雪見燈籠」は、庭園入口の切石敷を登ると初めてその存在に気づくようにした。今年4月、庭の入口へ菊地氏が鳥海石の屏風岩を据付け、マンサク・サクラ・イロハモミジを植栽した。その屏風岩に隠れるように雪見燈籠を据付けた。

石造物が入ると重みが出る

「新しくできた庭に年代物の石造物を設置することで庭に重みが加わった」と、横山氏は設計・施工・現場監督として語った。

「斬新な雲形水鉢」

昨年、小泉隆一氏作の**「雲形水鉢」**を池に設置した。福島県産の白御影石（高さ70センチメートル、幅1メートル角）にせり矢を入れて角を落とし、研磨機で削りながら丸くして造った。作成意図は、「池の水面には山や空が映る。その中に水鉢の雲の形が違和感なく映り込んだら面白い」。2週間かけた手作りの水鉢である。

この庭園は、津波で流された庭石や造成で発生した廃棄物の石を再利用して造られた。また、庭の中には、古い物・伝統的技術と、新しい物・現代的技術を上手く取り入れた。

一見の価値あり。会員の皆さん、是非、見に来てください。